

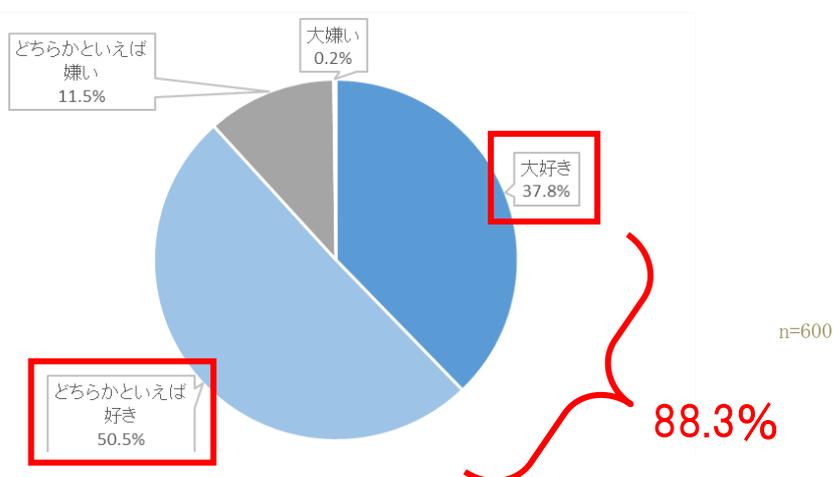
＜タキイ種苗 2015年度 野菜と家庭菜園に関する調査＞ ～関連資料～

『タキイ種苗 2015年度 野菜と家庭菜園に関する調査』のニュースリリースの調査結果や関連データは以下の通りです。

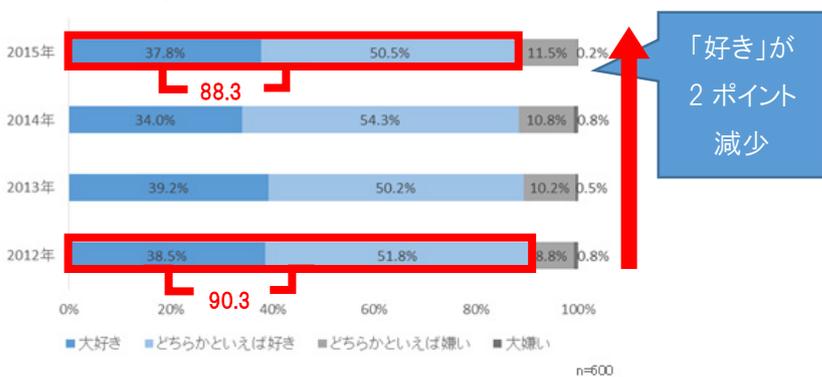
Q. あなたは野菜が好きですか？あてはまるもの一つに回答してください。

野菜の好き嫌いでは、「大好き」が 37.8%、「どちらかといえば好き」が 50.5%と合わせると 88.3%が「好き」と回答した。2012年と2015年を比較すると、「好き」という回答が 2.0ポイントも減少しており、野菜離れが進んでいることが裏付けられる結果となった。性別で比較すると、男性の「好き」の回答が女性に比べて低く、女性の方が野菜を好きと考えている人が多いことが分かった。

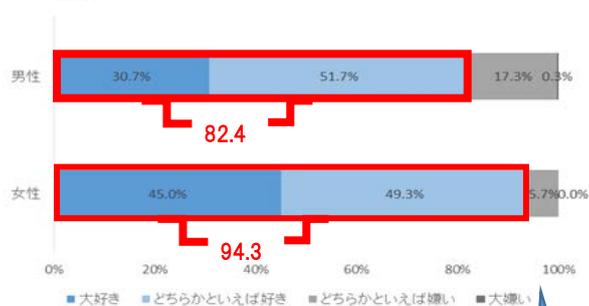
野菜の好き嫌い(全体)



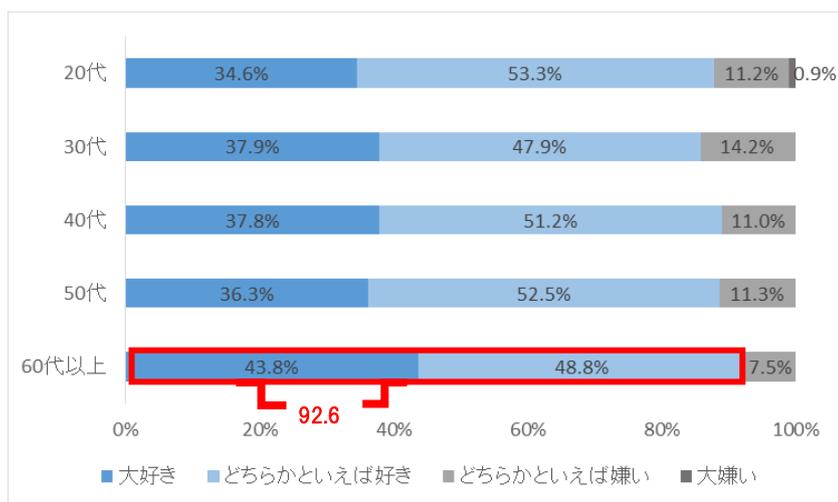
野菜の好き嫌い(2012年～2015年)



(性別比較)



(年代比較)

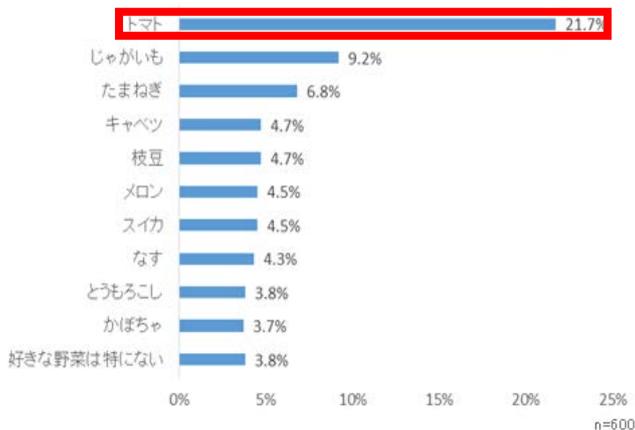


女性の方がより野菜が好きという結果に

Q. あなたが最も好きな野菜は何ですか？あてはまるもの一つに回答してください。

好きな野菜のトップは「トマト」で 21.7% だった。調査以来 7 年連続のトップとなった。2 位は「じゃがいも」で 9.2% と 2014 年に比べて 3.0 ポイント比率を下げた。上位の野菜を性別で比較すると、「トマト」は女性からの支持を得ているのに対し、「じゃがいも」は男性からの支持を得ていることが明らかとなった。

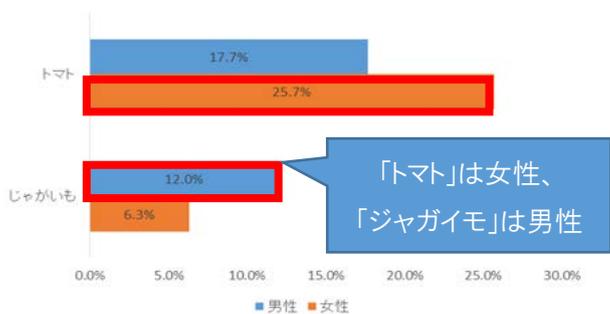
好きな野菜トップ 10(全体)



好きな野菜トップ 5(2010 年～2015 年)



好きな野菜トップ 2(性別比較)



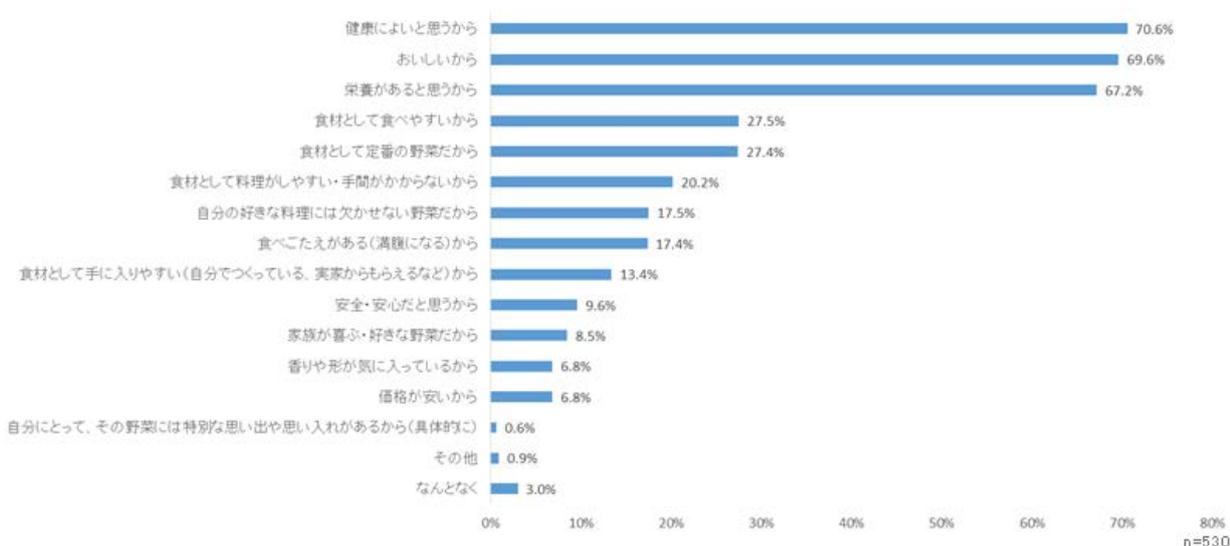
好きな野菜トップ「トマト」(年代比較)



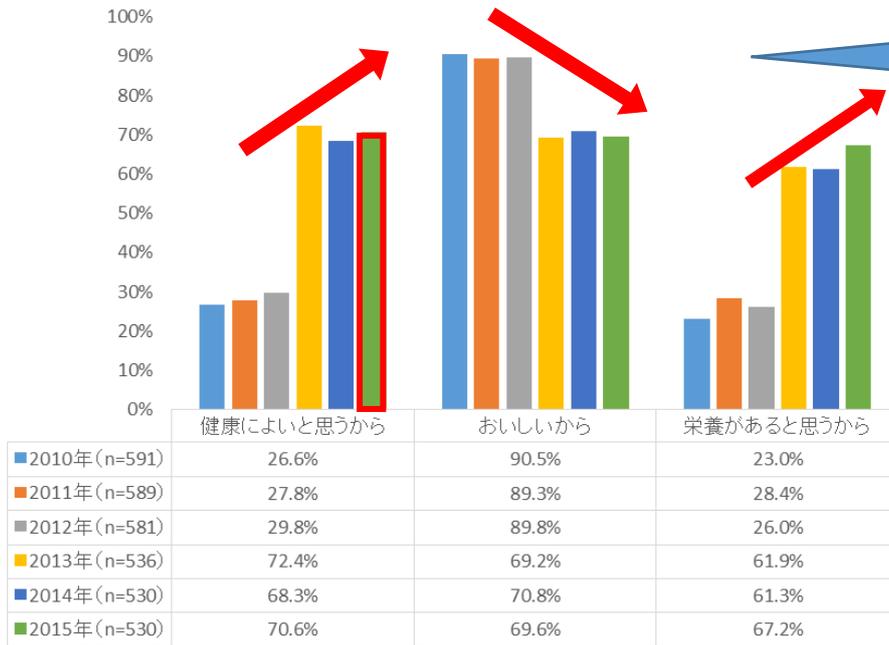
Q. あなたが野菜を好きな理由は何ですか？あてはまるものすべてに回答してください。

野菜を好きな理由は「健康によいと思うから」が 70.6%、「おいしいから」が 69.6%、「栄養があると思うから」が 67.2% となった。「健康によいと思うから」と「栄養があると思うから」からは、ここ 3 年間で大きく比率を高めている。逆に「おいしいから」との意見は減少傾向にあるようだ。野菜が好きな理由の上位を性別で比較すると、すべてにおいて女性が男性の比率を上回った。

野菜が好きな理由(全体)

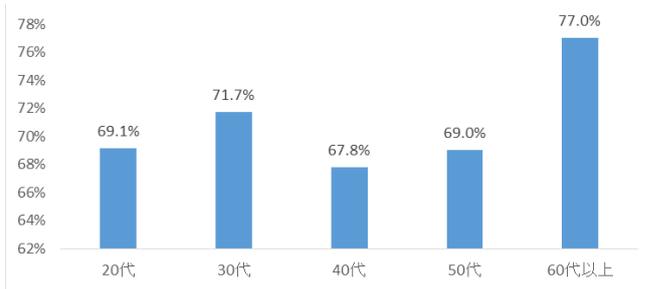


野菜が好きな理由トップ3(2010年～2015年)



健康によいと思うから、栄養があると思うからがポイントを伸ばす結果に

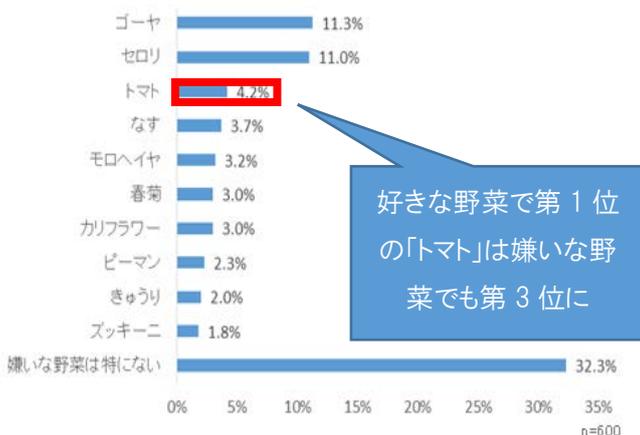
野菜が好きな理由トップ「健康によいと思うから」(年代比較)



Q. あなたが最も嫌いな野菜は何ですか。あてはまるもの一つに回答してください。

嫌いな野菜では、11.3%で「ゴーヤ」がトップとなった。2位には、2012年から3年間1位だった「セロリ」が11.0%となった。3位は好きな野菜で1位を獲得した「トマト」(4.2%)だった。嫌いな野菜の上位を性別で比較すると、「ゴーヤ」が嫌いという女性が多いことがわかった。「セロリ」は女性に比べて男性の方が、嫌いという意見が多かった。

嫌いな野菜トップ10(全体)



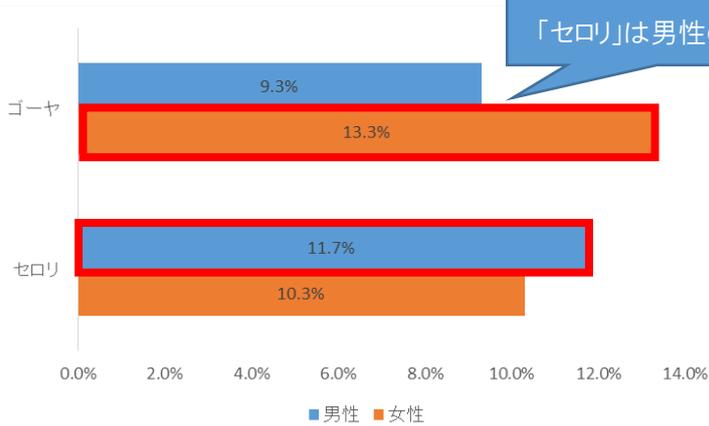
好きな野菜で第1位の「トマト」は嫌いな野菜でも第3位に

嫌いな野菜トップ5(2010年～2015年)



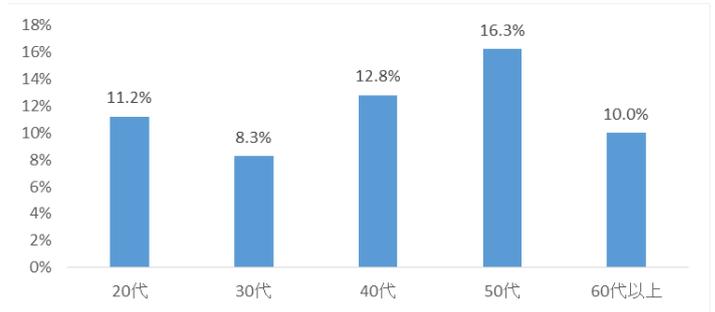
3年連続トップの「セロリ」が第2位に

嫌いな野菜トップ2(性別比較)



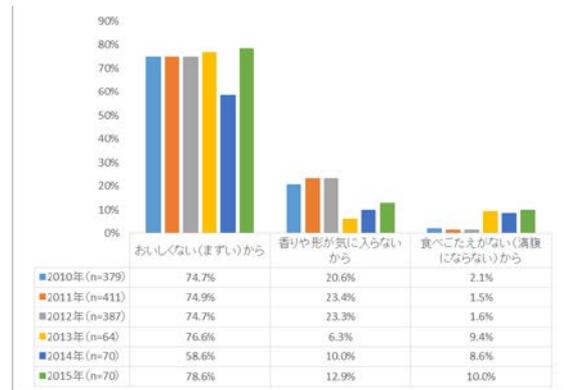
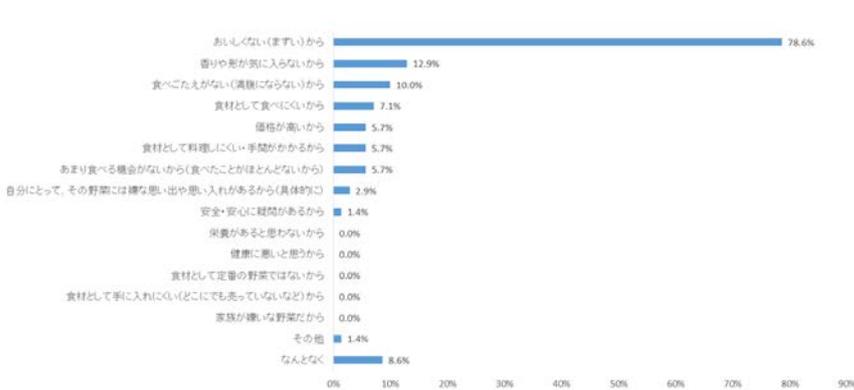
「ゴーヤ」は女性、「セロリ」は男性の方が嫌い

嫌いな野菜トップ「ゴーヤ」(年代比較)



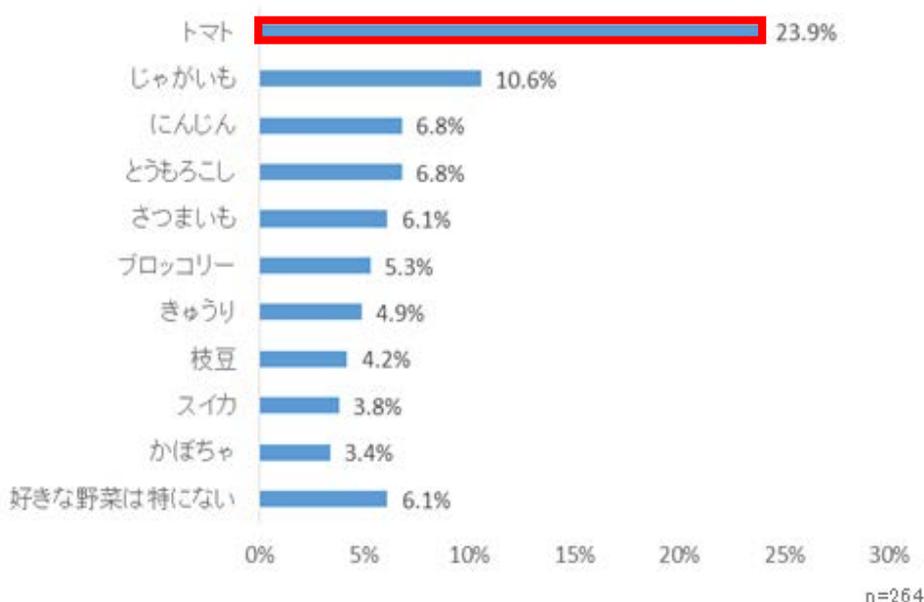
Q. あなたが野菜を嫌いな理由は何ですか？あてはまるものすべてに回答してください。

野菜が嫌いな理由では、「おいしくない(まずい)から」が 78.6%と、他の理由を大きく引き離しトップとなった。「おいしくない(まずい)から」は、2014年に50%台に比率を下げたものの、2015年は再び70%台となった。

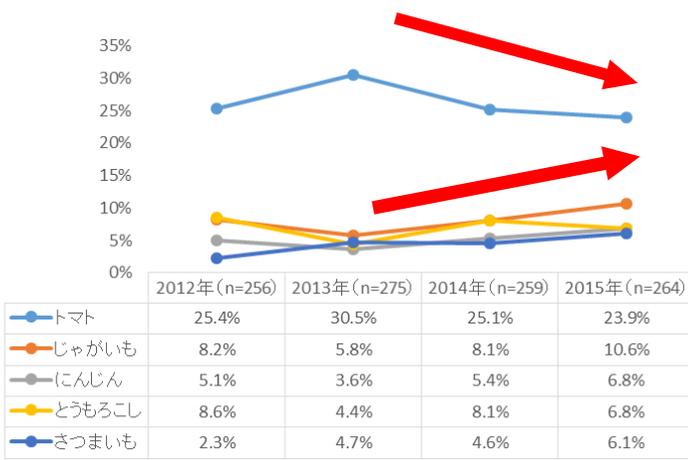


Q. 子どもが最も好きな野菜は何ですか？あてはまるもの一つに回答してください。

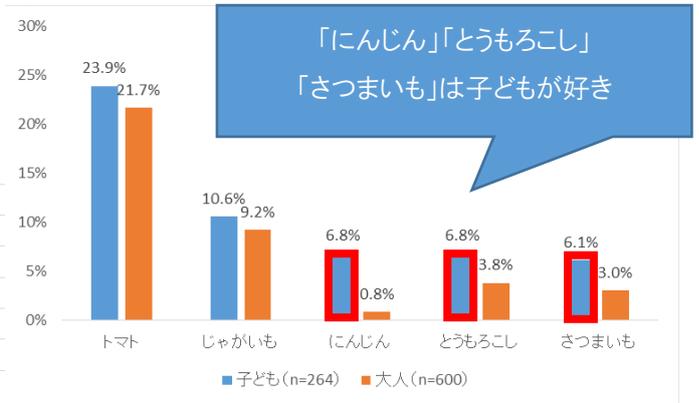
子どもの好きな野菜では、「トマト」が23.9%でトップだった。次に「じゃがいも」が10.6%、「にんじん」、「とうもろこし」が6.8%だった。2012年から2015年の回答を推移で見ると、「トマト」は減少傾向にあるが、「じゃがいも」は毎年少しずつ上昇している。大人と子どもの回答を比較すると、「トマト」と「じゃがいも」ではあまり差が見られなかったが、「にんじん」、「とうもろこし」、「さつまいも」では、大人と子どもの回答に差が見られた。



子どもが好きな野菜トップ 5(2012 年～2015 年)



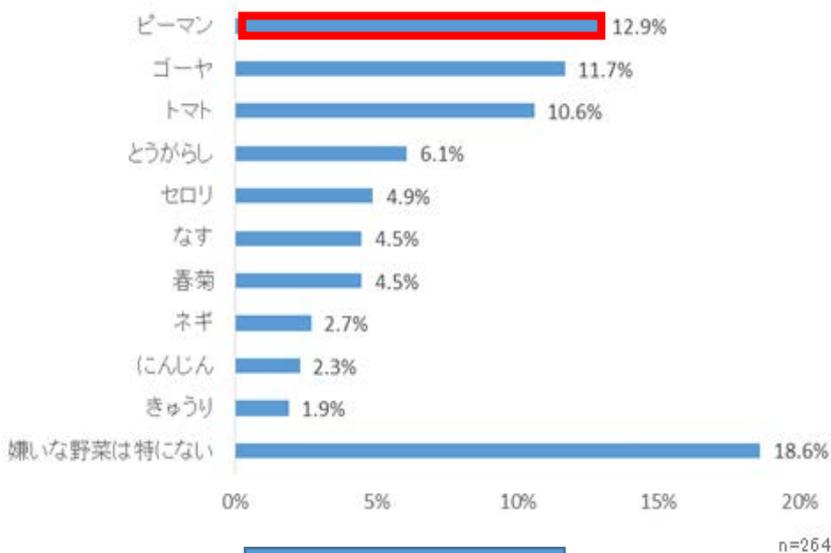
子どもと親が好きな野菜(トップ 5 比較)



Q. 子どもが最も嫌いな野菜は何ですか？あてはまるもの一つに回答してください。

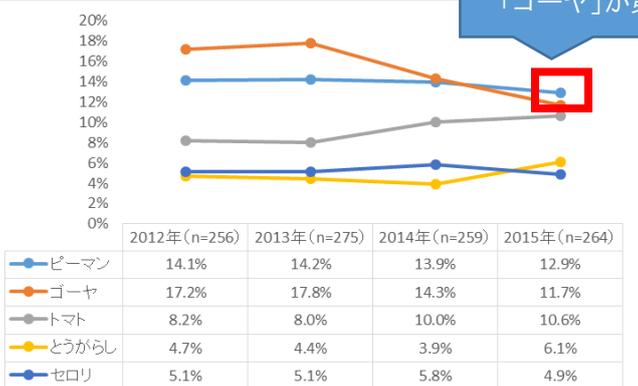
子どもの嫌いな野菜では、「ピーマン」が 12.9%で最も高かった。次いで「ゴーヤ」が 11.7%、「トマト」が 10.6%だった。2012 年から 2015 年の回答を推移で見ると、2014 年までトップだった「ゴーヤ」の比率が減少した。一方、比率を上げているのは、「トマト」「とうがらし」だった。大人と子どもの回答を比較すると、「ゴーヤ」はあまり差が見られないが、「ピーマン」「トマト」「とうがらし」においては、子どもが嫌いだとする回答が高かった。子どもに比べて大人の比率が高かった野菜は「セロリ」だった。

子どもが嫌いな野菜トップ 10(全体)

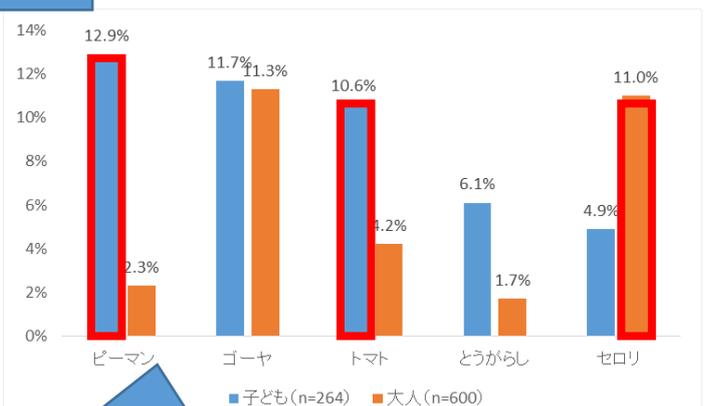


子どもと親が嫌いな野菜(トップ 5 比較)

3 年連続トップの「ゴーヤ」が第 2 位に



子どもと親が嫌いな野菜(トップ 5 比較)

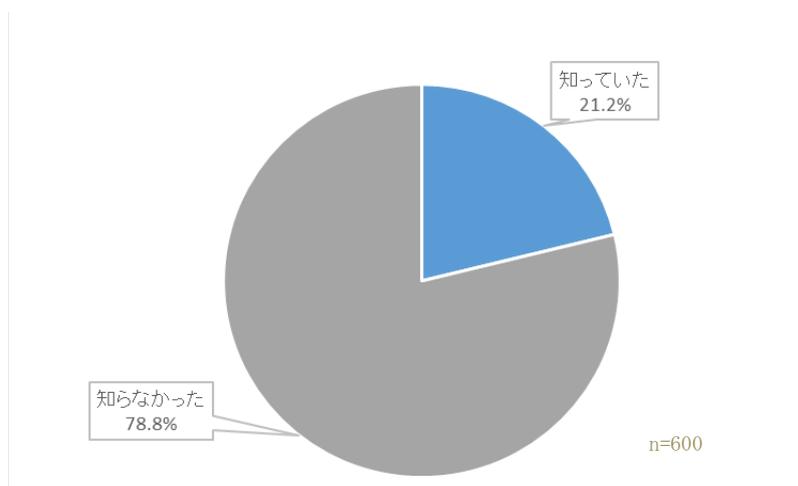


「ピーマン」「トマト」「とうがらし」は子どもが嫌い。「セロリ」は大人が嫌い

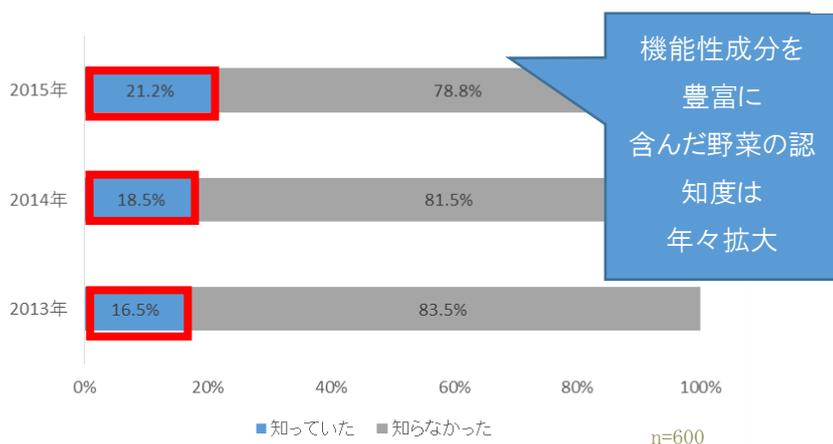
Q. あなたは通常の野菜より栄養価の高い「機能性成分を豊富に含む野菜」をご存知でしたか？

機能性成分を豊富に含んだ野菜の認知は、「知っていた」が 21.2%と 2 割を超えた。2013 年、2014 年の回答と 2015 年を比較すると、年々「知っていた」との比率が高まっている。性別比較では、男女で認知度の差は見られなかった。年代比較では、60 代以上の認知率が高かった。

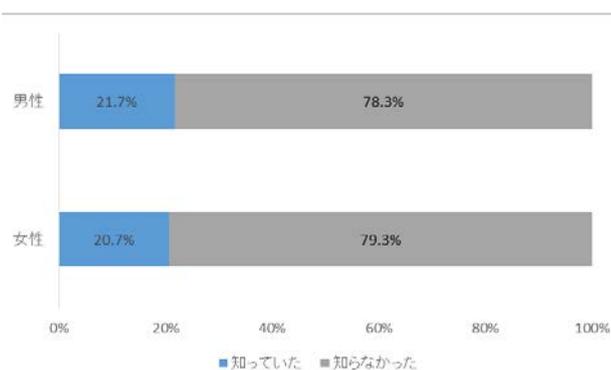
機能性成分を豊富に含んだ野菜の認知(全体)



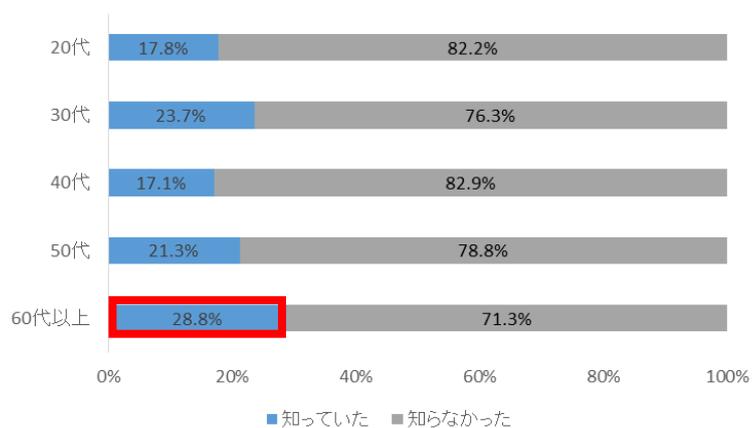
機能性成分を豊富に含んだ野菜の認知(2013年～2015年)



機能性成分を豊富に含んだ野菜の認知(性別比較)



機能性成分を豊富に含んだ野菜の認知(年代比較)

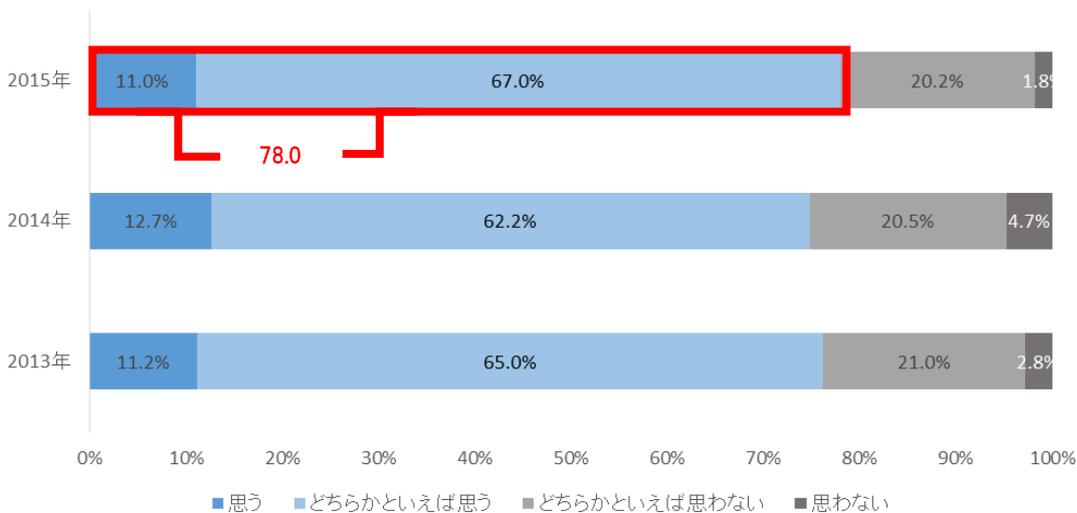
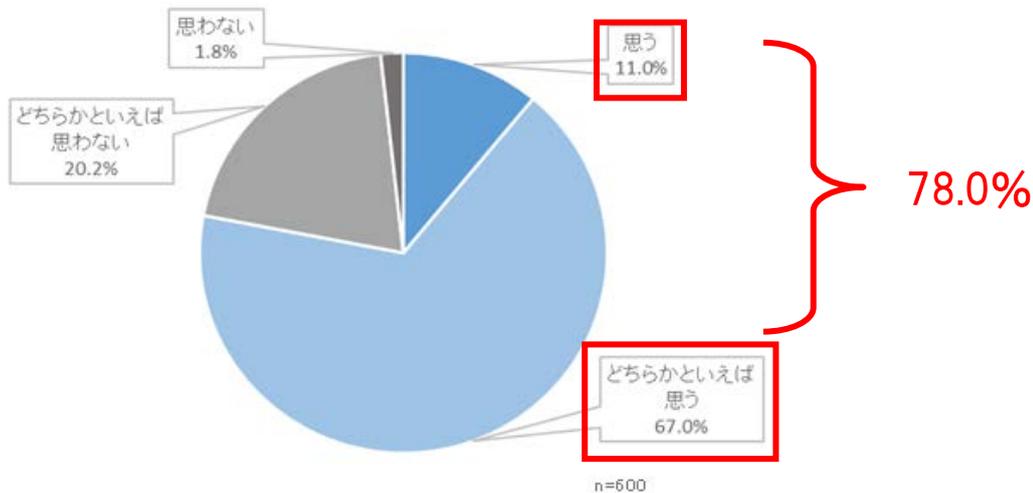


60代以上の認知度が高い

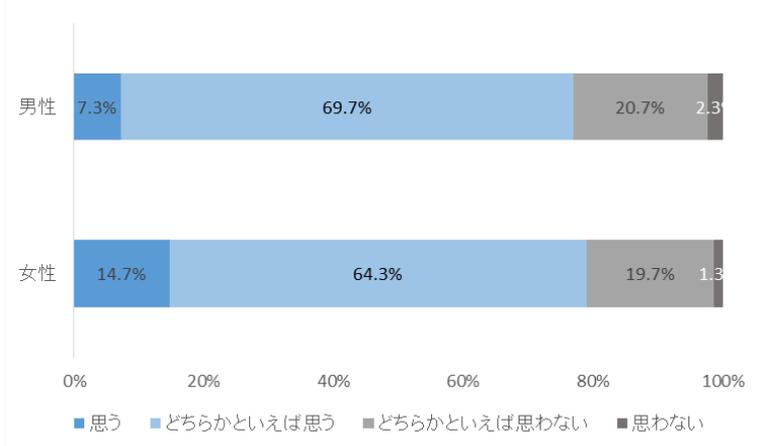
Q. あなたは通常の野菜より栄養価の高い「機能性成分を豊富に含む野菜」をご自身の食生活に取り入れたいと思いますか？

機能性成分を豊富に含んだ野菜を生活に取り入れることについては、「思う」が 11.0%、「どちらかといえば思う」が 67.0%、合計 78.0%が機能性成分を豊富に含んだ野菜を食生活に取り入れたいと思っていることがわかった。2013 年、2014 年、2015 年の回答を比較してみると、機能性成分を豊富に含んだ野菜を取り入れたいと思う比率は、年々増加傾向にある。

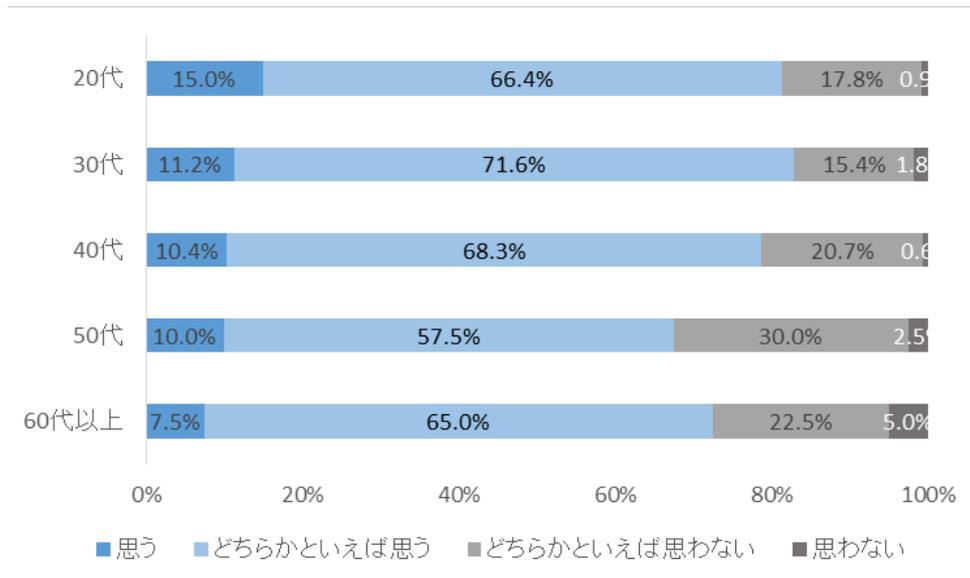
機能性成分を豊富に含んだ野菜を生活に取り入れることについて(全体)



機能性成分を豊富に含んだ野菜を生活に取り入れることについて(性別比較)



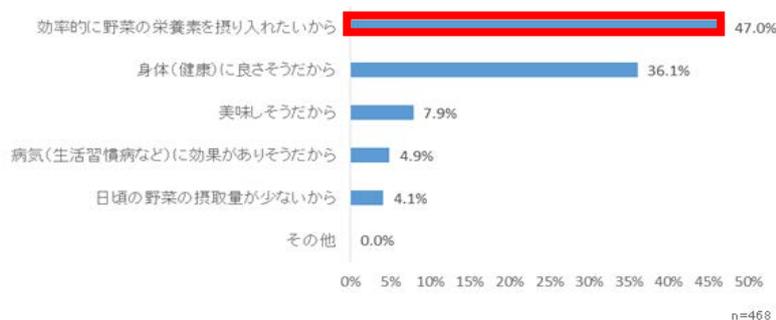
機能性成分を豊富に含んだ野菜を生活に摂り入れることについて(年代比較)



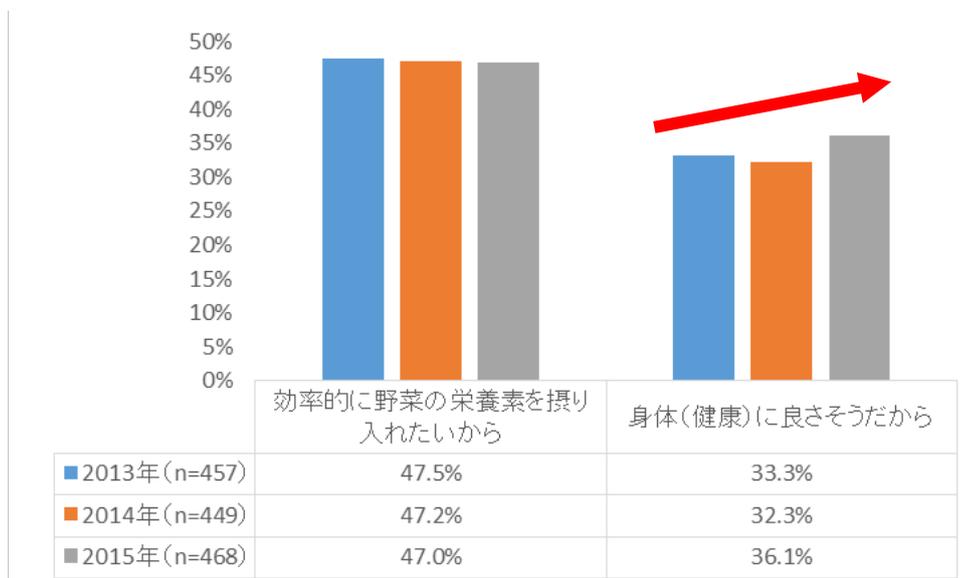
Q. あなたは、どのような理由で「機能性成分を豊富に含む野菜」を食生活に摂り入れたいと思いますか？最もあてはまる理由をお答えください。

機能性成分を豊富に含んだ野菜を生活に摂り入れたい理由では、「効率的に野菜の栄養を摂り入れたいから」が47.0%でトップだった。次いで「身体(健康)に良さそうだから」が36.1%となった。2013年、2014年の回答と2015年の回答を比較すると、「身体(健康)に良さそうだから」の比率が上昇している。性別比較では、男女にあまり大きな差が見られなかった。

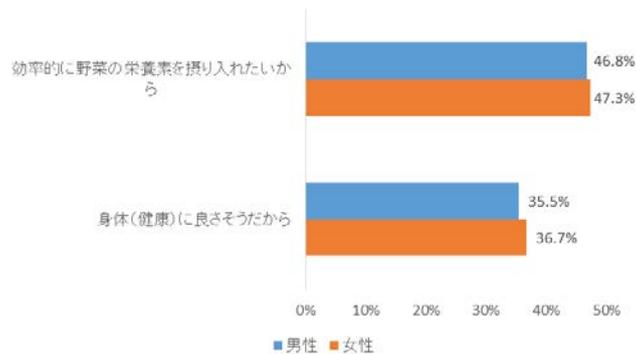
機能性成分を豊富に含んだ野菜を生活に摂り入れたい理由(全体)



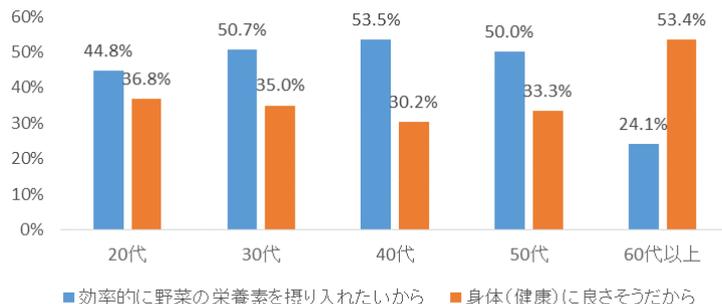
機能性成分を豊富に含んだ野菜を生活に摂り入れたい理由トップ2(2013年~2015年)



機能性成分を豊富に含んだ野菜を生活に摂り入れたい理由トップ2(性別比較)



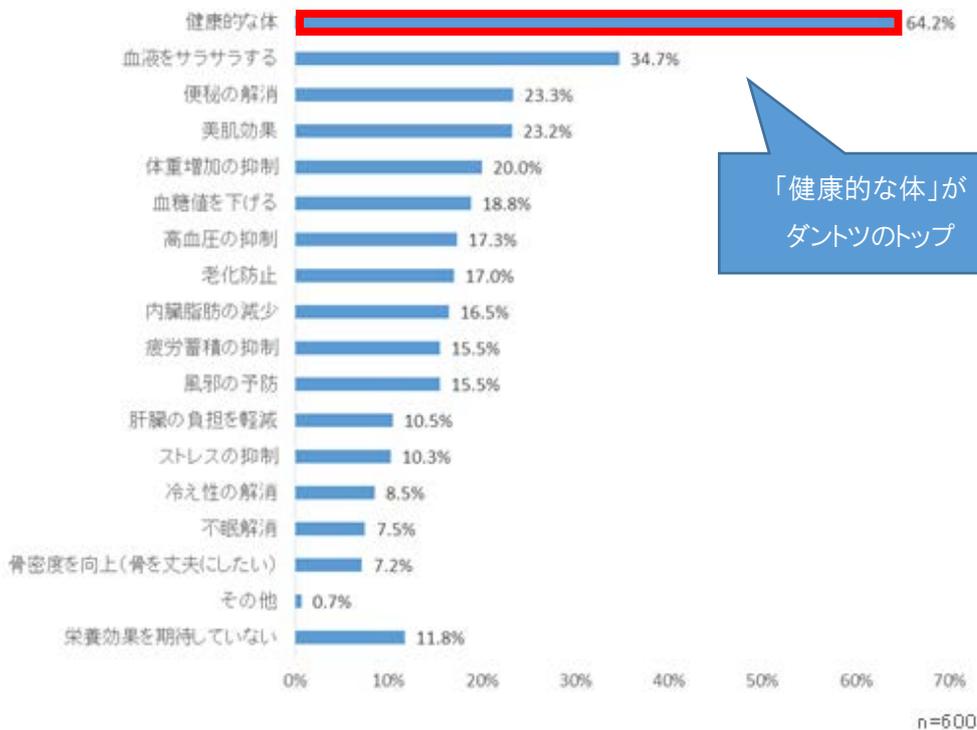
(年代比較)



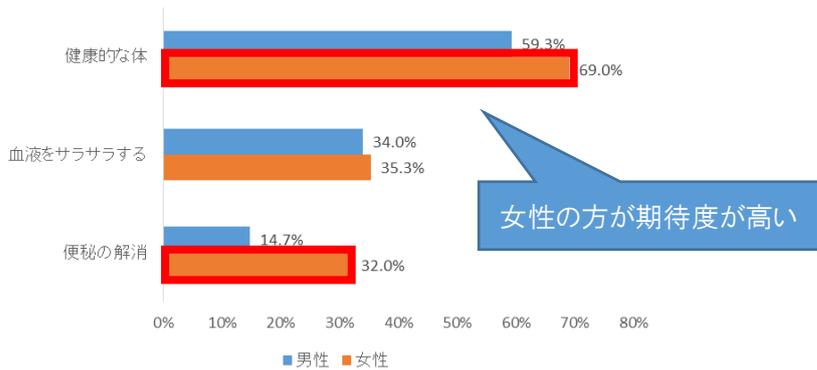
Q. あなたは、「機能性成分を豊富に含む野菜」に何を期待しますか？

機能性成分を豊富に含んだ野菜に期待することについては、「健康的な体」が64.2%で他の回答を大きく引き離した。次いで、「血液をサラサラする」が34.7%、「便秘の解消」が23.3%だった。性別比較では、女性の方が男性に比べて「健康的な体」と回答していた。また、「便秘の解消」についても、女性の比率が高かった。「健康的な体」は、年代が若くなるほど比率が高かった。

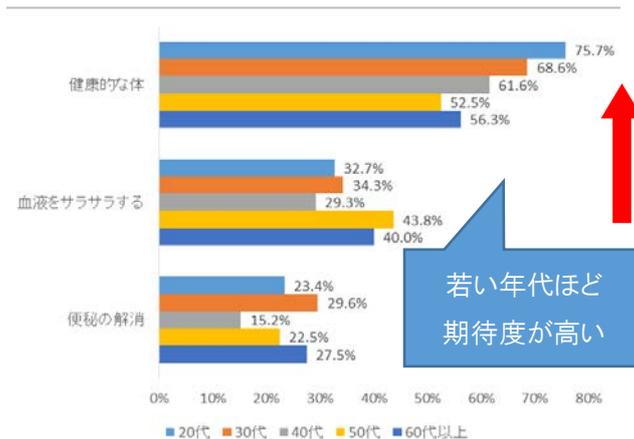
機能性成分を豊富に含んだ野菜に期待すること



機能性成分を豊富に含んだ野菜に期待することトップ3(性別比較)



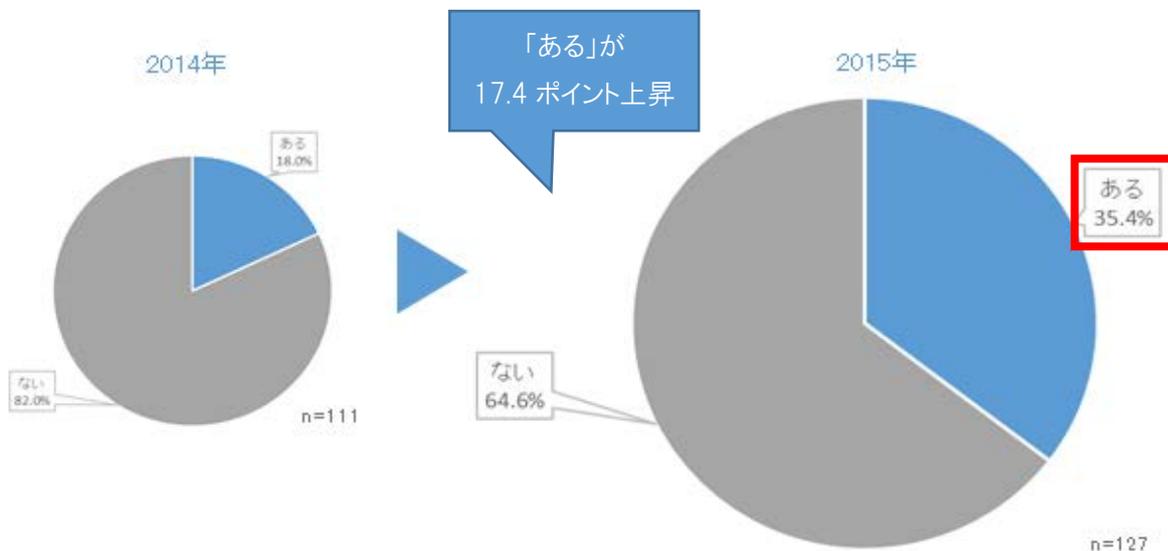
(年代比較)



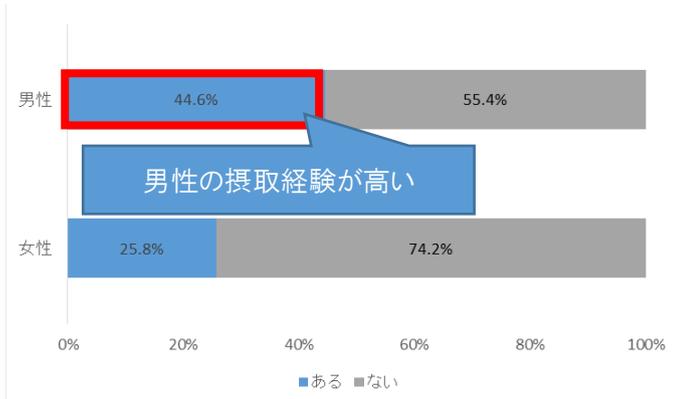
Q. あなたは、「機能性成分を豊富に含む野菜」を食べたことはありますか。

機能性成分を豊富に含んだ野菜の摂取経験を見ると、「ある」は35.4%に達した。2014年と比較すると、「ある」は17.4%も上昇しており、摂取経験者が増えていることがうかがえる結果となった。機能性成分を豊富に含んだ野菜の摂取経験を性別で比較すると、男性は「ある」44.6%、女性は「ある」25.8%と、男性の摂取経験が高いことが明らかとなった。年代比較では、60代以上の摂取経験が低かった。

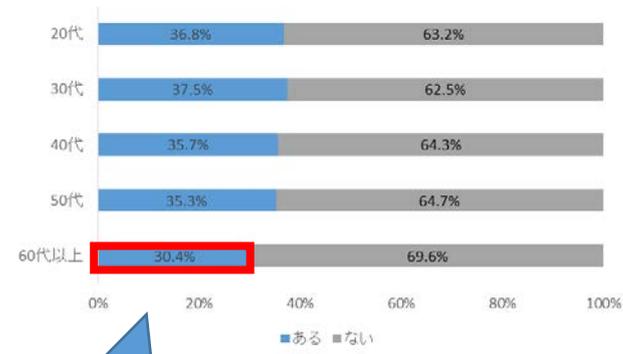
機能性成分を豊富に含んだ野菜の摂取経験(2014年と2015年比較)



機能性成分を豊富に含んだ野菜の摂取経験(性別比較)



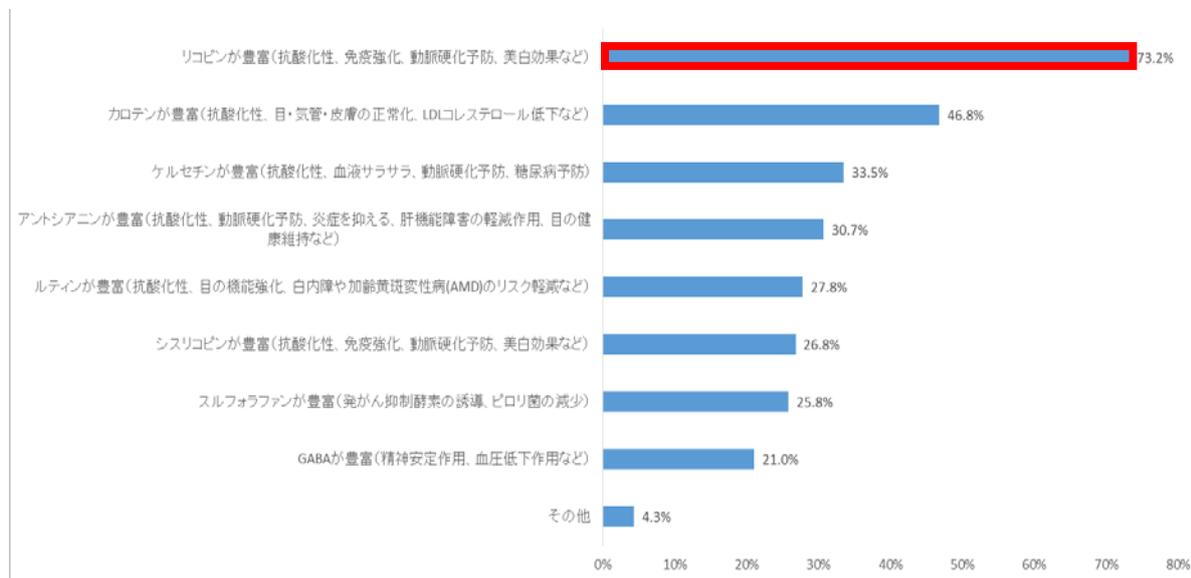
(年代比較)



Q. あなたは、「機能性成分を豊富に含む野菜」にどんな機能性成分を期待していますか。(いくつでも)

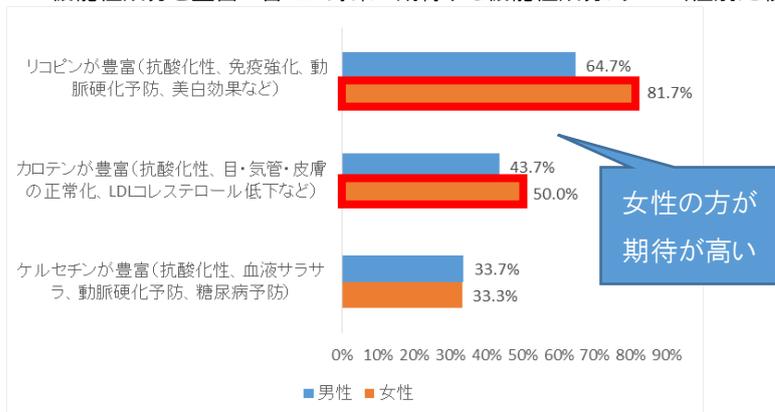
機能性成分を豊富に含んだ野菜に期待する機能性成分については、「リコピンが豊富(抗酸化性、免疫強化、動脈硬化予防、美白効果など)」が 73.2%で最も高かった。「カロテンが豊富(抗酸化性、目・気管・皮膚の正常化、LDL コレステロールの低下など)」は 46.8%だった。2014 年の回答と比較すると、「カロテンが豊富」「ケルセチンが豊富」の比率が下がっていた。性別比較では、「リコピンが豊富」「カロテンが豊富」で女性の比率が男性に比べて高かった。

機能性成分を豊富に含んだ野菜に期待する機能性成分(全体)

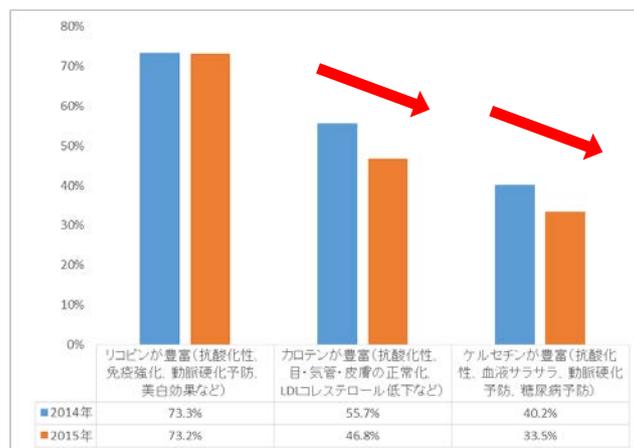


n=600

機能性成分を豊富に含んだ野菜に期待する機能性成分トップ3(性別比較)



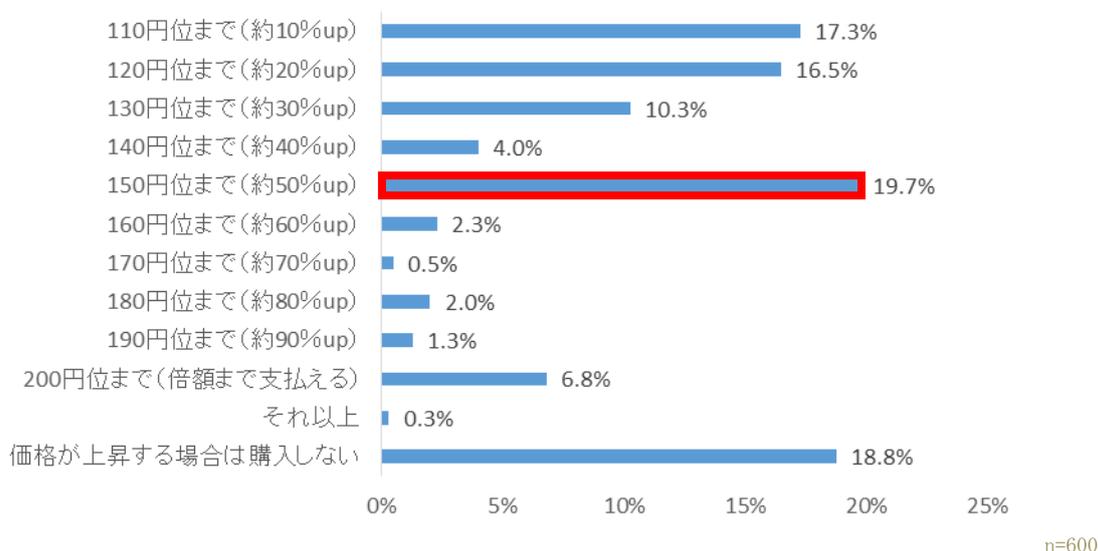
(2014年~2015年)



Q. あなたは、従来のものより約 2 倍のリコピンが含まれるミニトマトがあった場合、従来品種に比べどの程度の価格帯までであれば購入したいと思いますか。(例)従来品種のミニトマト 1 袋を 100 円と仮定します。

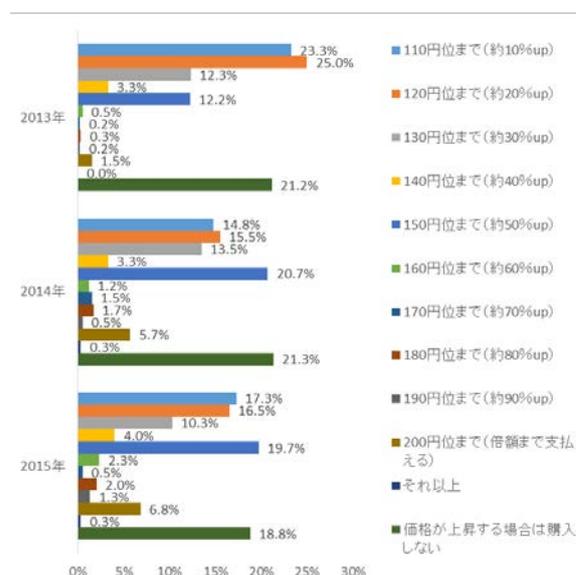
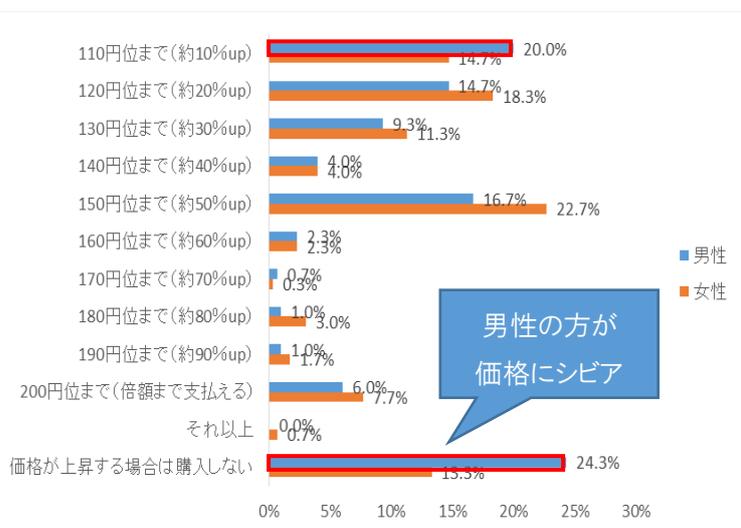
機能性成分を豊富に含んだトマトの購入希望価格では、「150 円位まで(約 50%UP)」が 19.7%でトップだった。次に「価格が上昇する場合は購入しない」が 18.8%だった。性別で比較すると、男性は「価格が上昇する場合は購入しない」、「110 円位まで(約 10%UP)」の比率が、女性に比べて高かった。男性の方が機能性成分を豊富に含んだ野菜については、価格に対してシビアな点が浮き彫りとなった。

機能性成分を豊富に含んだトマトの購入希望価格(全体)



機能性成分を豊富に含んだトマトの購入希望価格(性別比較)

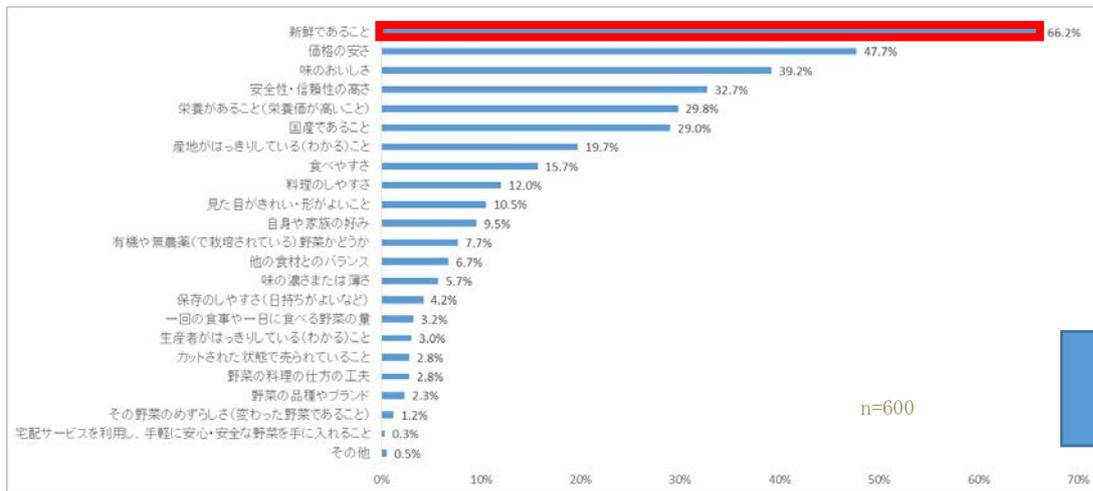
(2013年~2015年)



Q. あなたが野菜を食べる際や購入する際、実際にはどのようなポイントを重視して選んでいますか？主なものを5つまで回答してください。

野菜を食べたり購入する際の重視点では、「新鮮であること」が66.2%でトップとなった。次いで「価格の安さ」が47.7%、「味のおいしさ」が39.2%だった。2010年から行っている過去の調査と比較すると、「新鮮であること」「価格の安さ」は例年同じ比率で推移しているが、「味のおいしさ」は年々比率が減少している。性別比較では、「新鮮であること」「価格の安さ」においては女性が男性を大きく上回った。

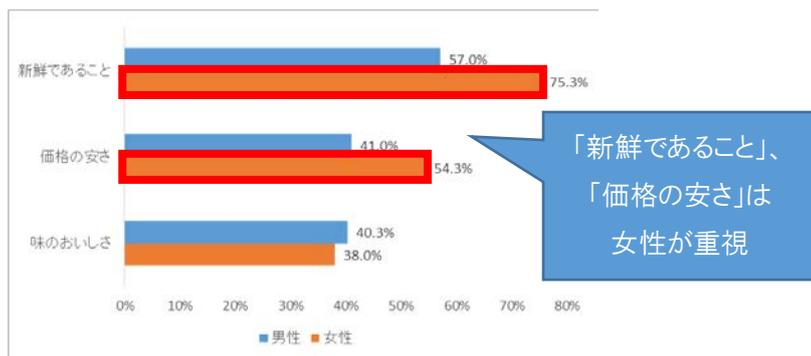
野菜を食べたり購入する際の重視点



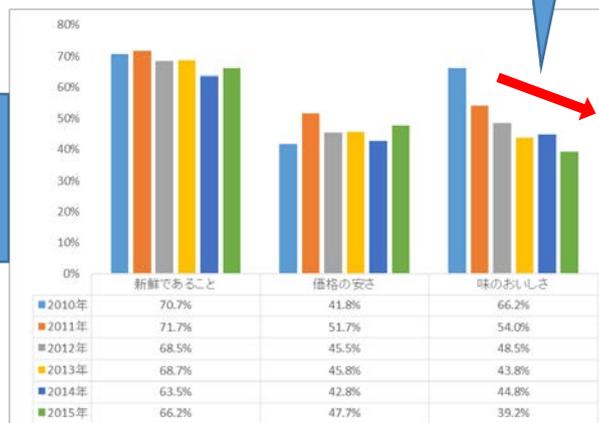
年々比率を下げ
3位に後退

野菜を食べたり購入する際の重視点トップ3(性別比較)

(2010年~2015年)



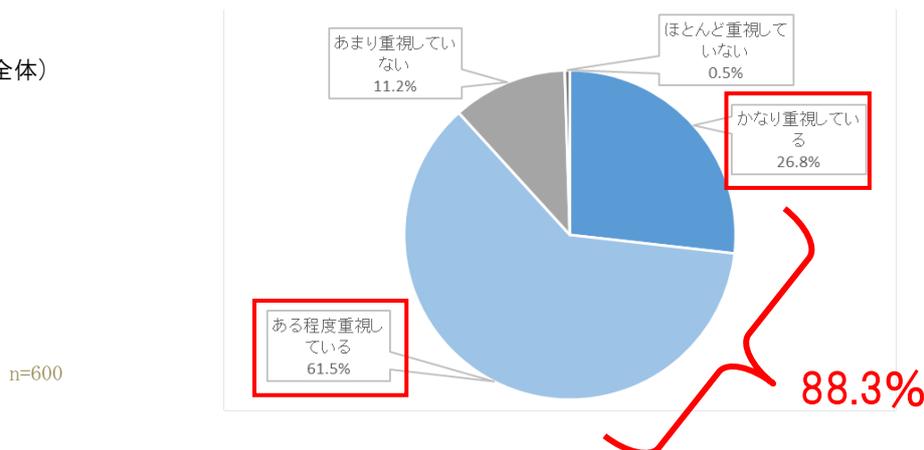
「新鮮であること」、
「価格の安さ」は
女性が重視



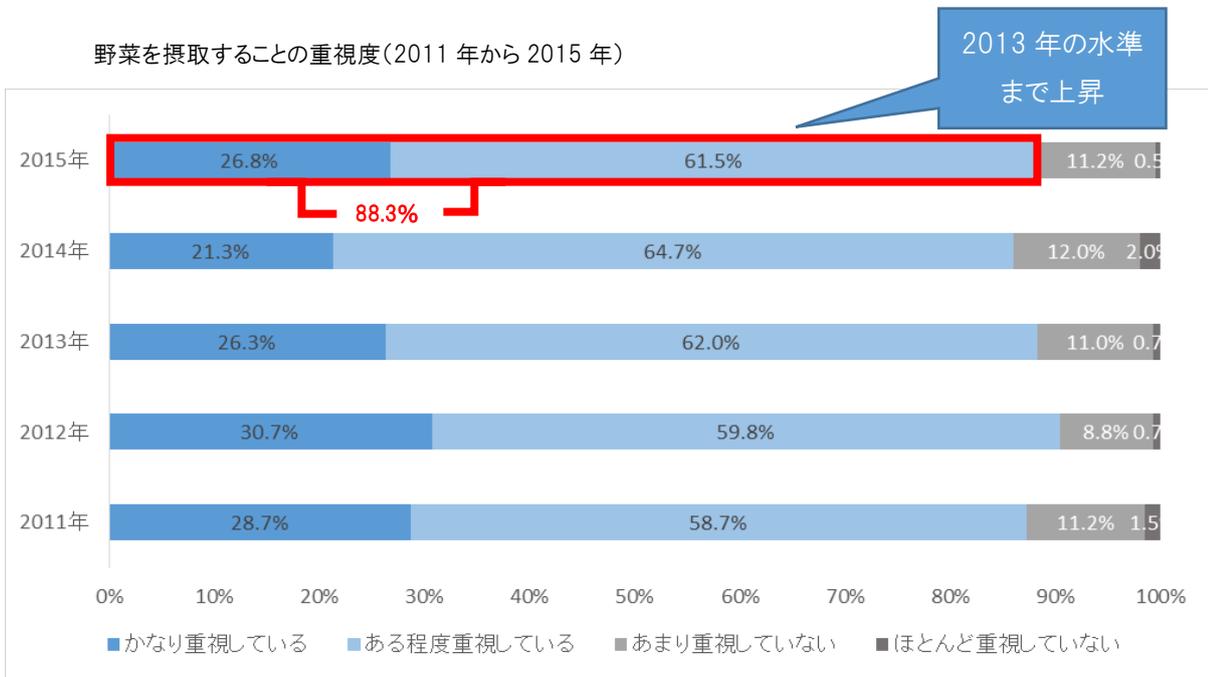
Q. あなたは普段の食生活の中で野菜を食べる(摂取する)ことをどの程度重視していますか。あてはまるもの一つに回答してください。

野菜を摂取することの重視度では、「かなり重視している」が26.8%、「ある程度重視している」が61.5%で、「重視している」の合計は88.3%となった。2012年から「重視している」との回答は減少傾向にあったが、2015年は2013年の水準にまで引き戻している。性別比較では、女性の方が「重視している」との回答が高く、「かなり重視している」は34.3%を占めた。年代が高いほど重視度も高くなる傾向にある。

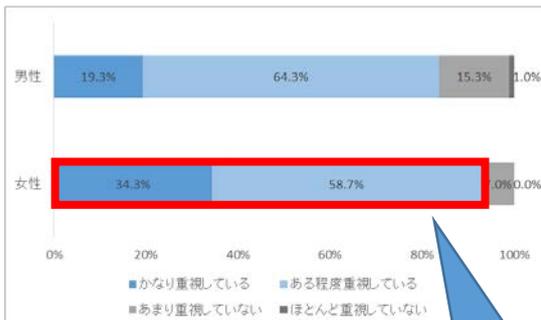
野菜を摂取することの重視度(全体)



野菜を摂取することの重視度(2011年から2015年)

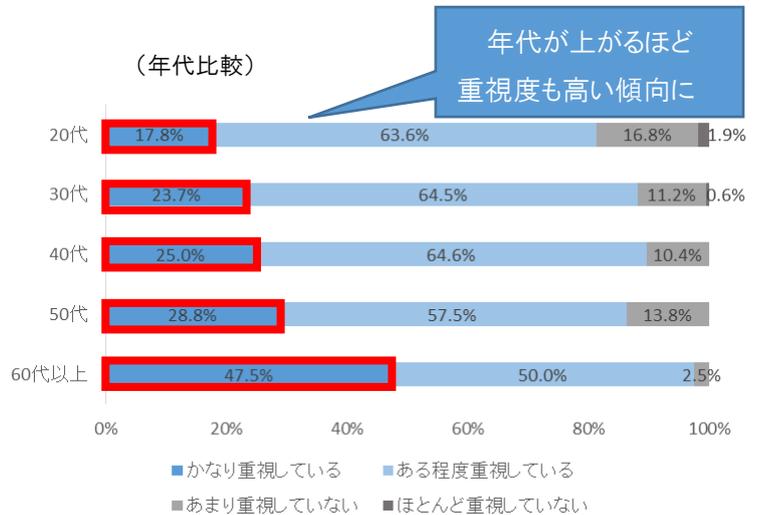


野菜を摂取することの重視度(性別比較)



女性の重視度が高い

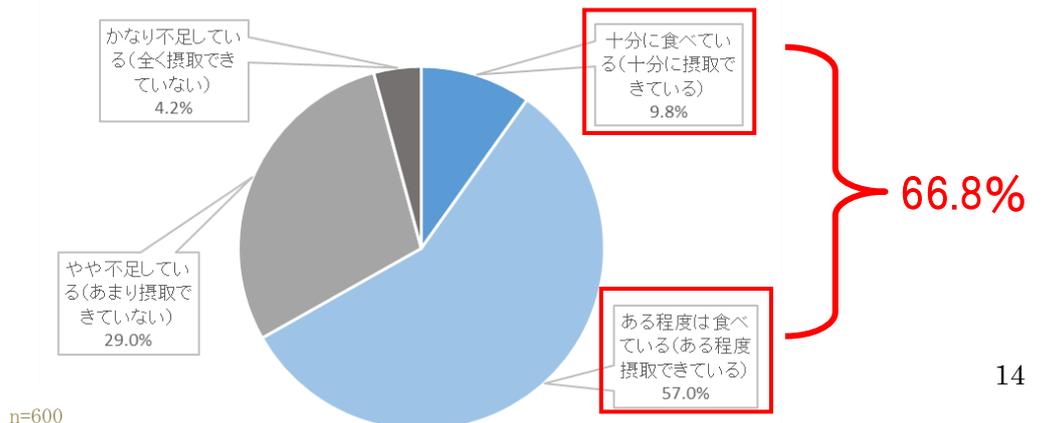
(年代比較)



Q. あなたは普段の食生活の中で実際に野菜を十分に食べている(摂取できている)と思いますか?あてはまるもの一つに回答してください。

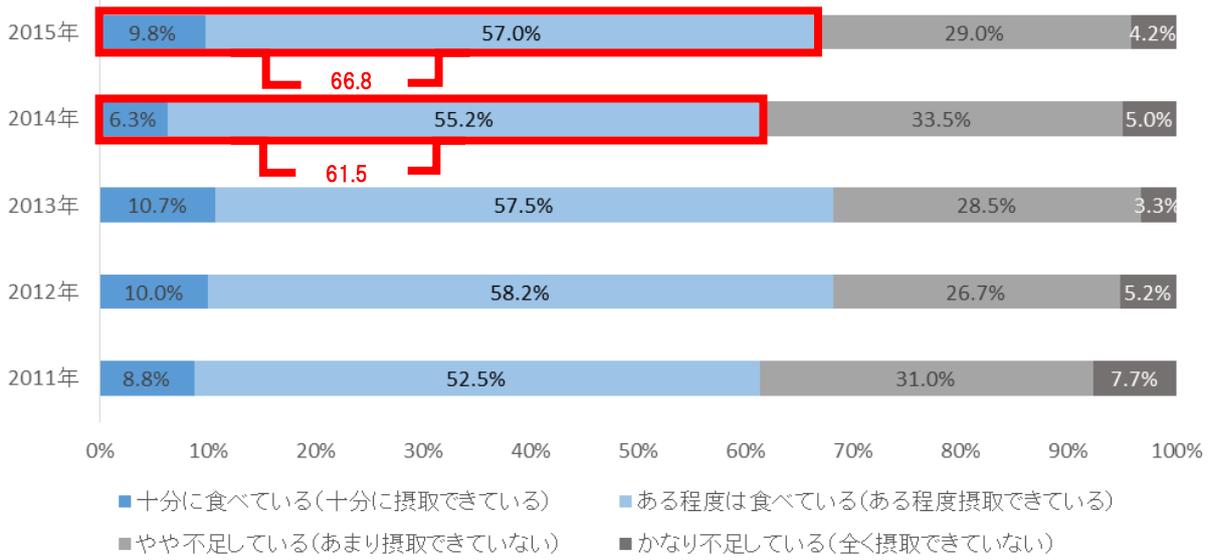
野菜の十分な摂取では、「十分に食べている(十分に摂取できている)」が 9.8%、「ある程度は食べている(摂取できている)」が 57.0%と、「食べている(摂取できている)」の合計は 66.8%だった。2014年と比較しても、「食べている(摂取できている)」の比率は上昇していた。性別比較では、女性の方が男性に比べて「食べている(摂取できている)」との回答が高かった。

野菜の十分な摂取(全体)



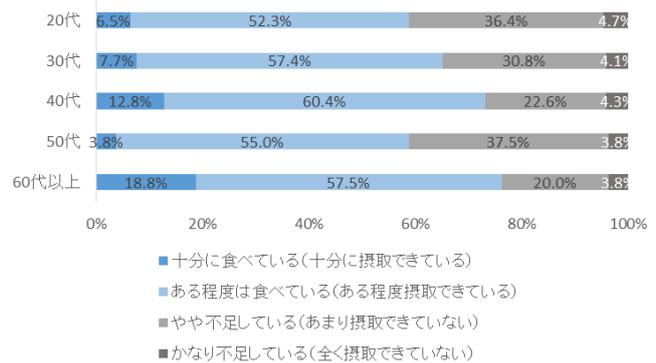
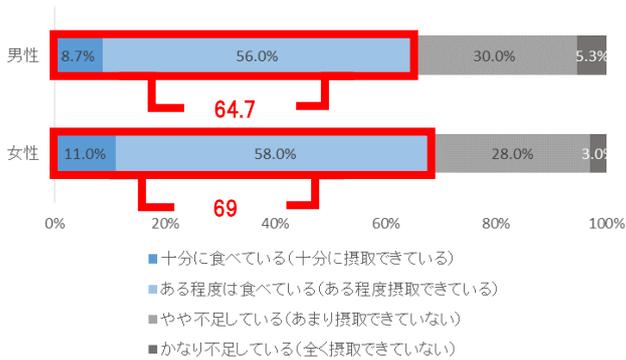
野菜の十分な摂取(2011年～2015年)

2014年に比べて
比率が5.3ポイント上昇



野菜の十分な摂取(年代比較)

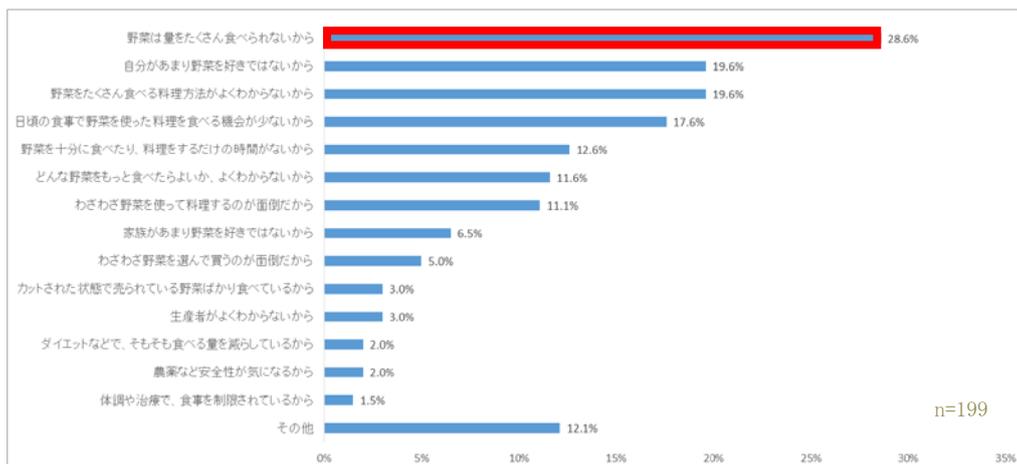
(年代比較)



Q. あなたが現在ご自身の食生活で野菜が十分に取れていない理由は何ですか？あてはまるものをすべてお選びください。

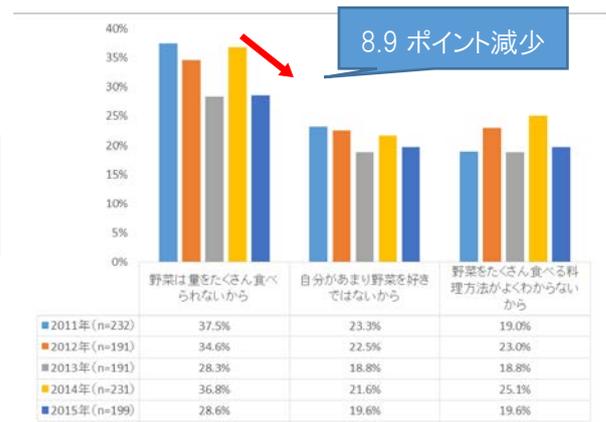
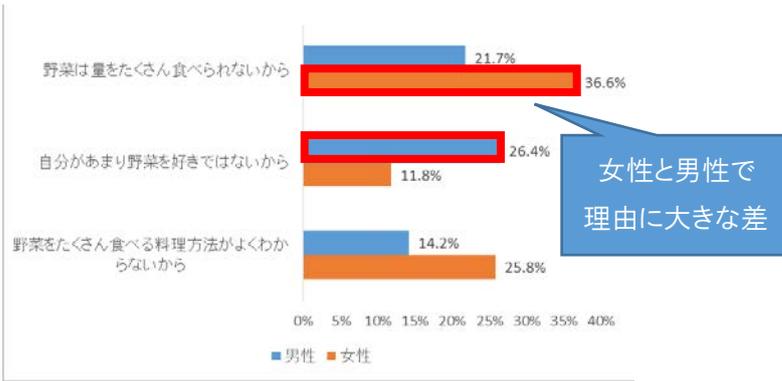
野菜を十分に摂取できていない理由については、「野菜は量をたくさん食べられないから」が 28.6%で最も多かった。次いで、「自分があまり野菜を好きではないから」「野菜をたくさん食べる料理方法がよくわからないから」が 19.6%で並んだ。2011年と2015年を比較すると、「野菜は量をたくさん食べられないから」は、8.9ポイントも減少した。性別で比較すると、「野菜は量をたくさん食べられないから」「野菜をたくさん食べる料理方法がよくわからないから」においては女性が男性を大きく上回り、「自分があまり野菜を好きではないから」では、男性が女性を大きく上回った。

野菜を十分に摂取できていない理由(全体)



(2011年～2015年)

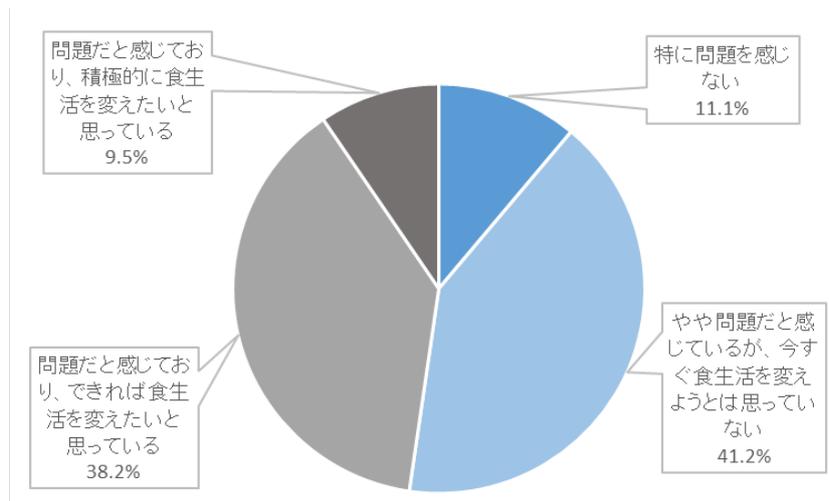
野菜を十分に摂取できていない理由トップ3(性別比較)



Q. 現在、食生活で野菜が十分に取れていないことについてどう考えていますか？あてはまるもの一つに回答してください。

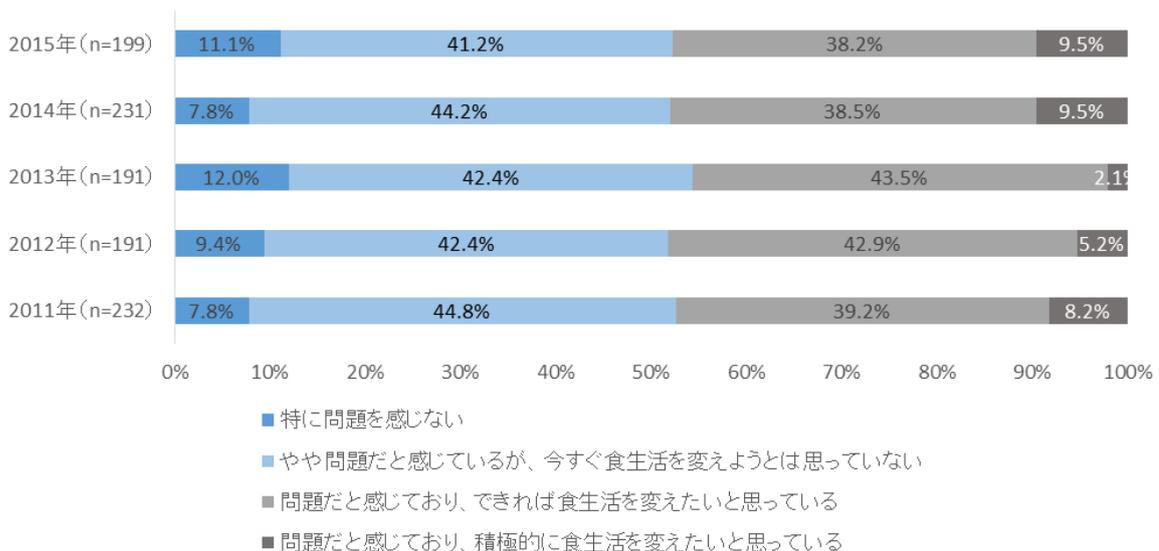
野菜を十分に摂取できていない点については、「特に問題を感じない」が 11.1%、「やや問題だと感じているが、今すぐ食生活を変えようとは思っていない」が 41.2%と、問題意識の低さが浮き彫りとなった。性別で比較すると、男性の問題意識の低さが際立っているものの、男性では「問題だと感じており、積極的に食生活を変えたいと思っている」との回答は、女性に比べて高かった。

野菜を十分に摂取できていない点について(全体)

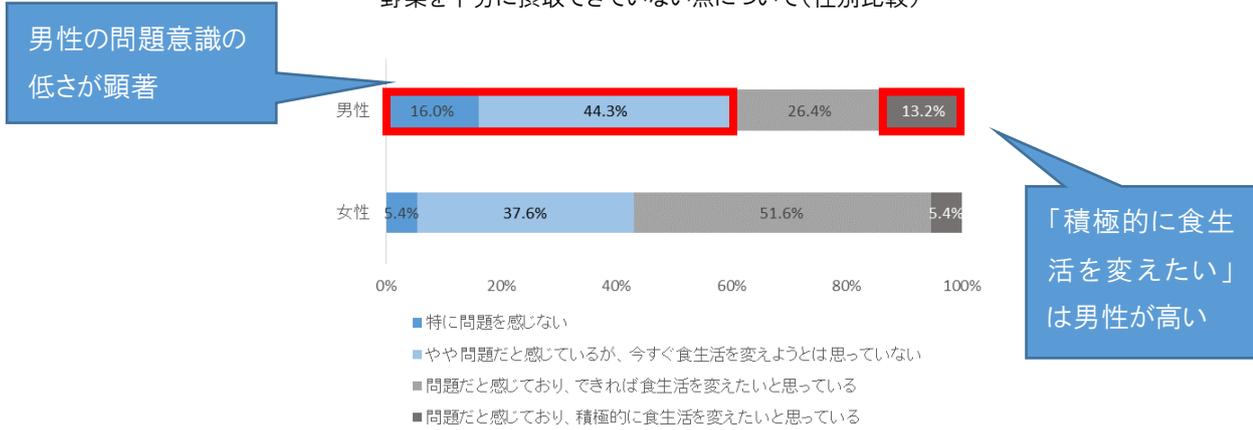


n=199

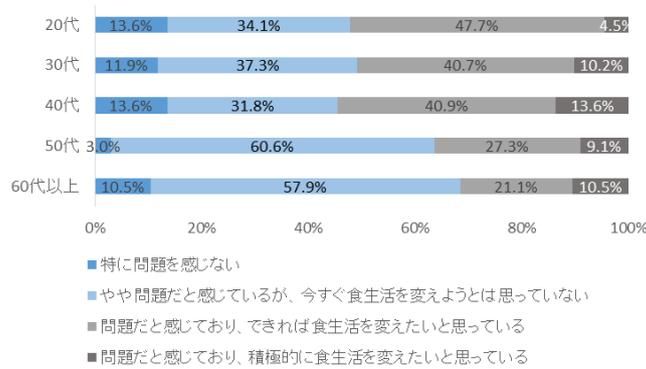
野菜を十分に摂取できていない点について(2011年～2015年)



野菜を十分に摂取できていない点について(性別比較)



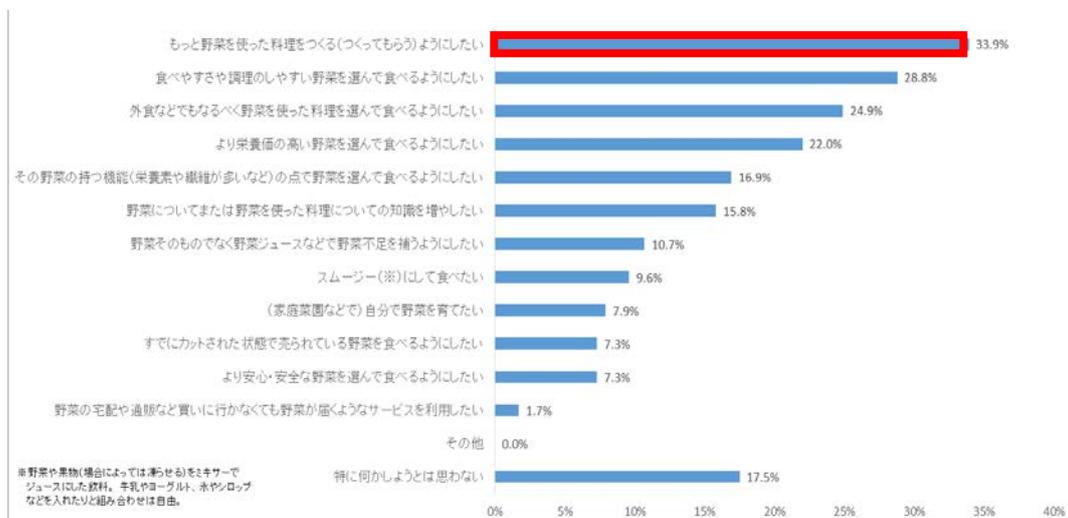
野菜を十分に摂取できていない点について(年代比較)



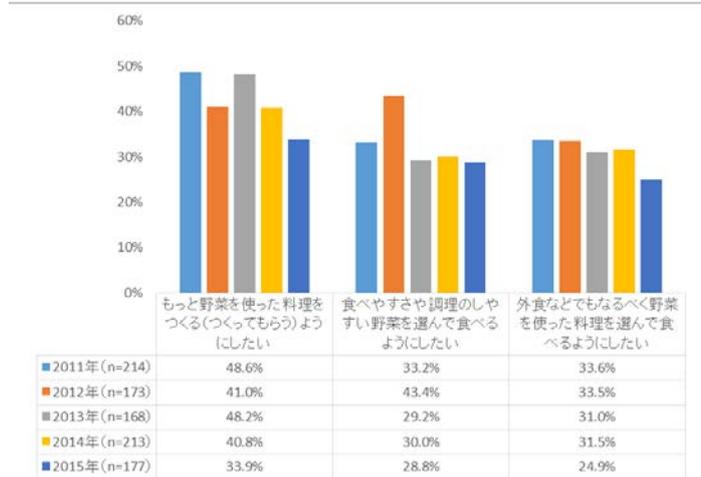
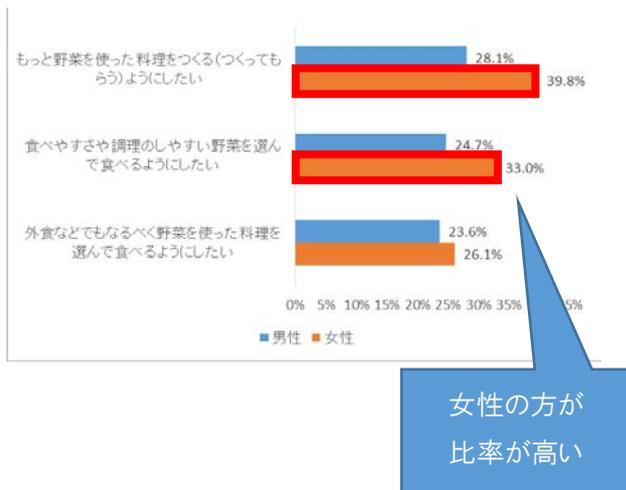
Q. あなたは今後、自身の食生活で野菜をもっと取るために、どのようなことをしたいと思いますか？あてはまるものをすべてお選びください。

野菜を摂取するためにしたいことでは、「もっと野菜を使った料理をつくる(つくってもらう)ようにしたい」が 33.9%でトップだった。「食べやすさや調理のしやすい野菜を選んで食べるようにしたい」は 28.8%だった。「もっと野菜を使った料理をつくる(つくってもらう)ようにしたい」は、2013 年から比率が減少している。性別比較では、「もっと野菜を使った料理をつくる(つくってもらう)ようにしたい」「食べやすさや調理のしやすい野菜を選んで食べるようにしたい」共に、女性が男性を大きく上回る回答を示した。

野菜を摂取するためにしたいこと



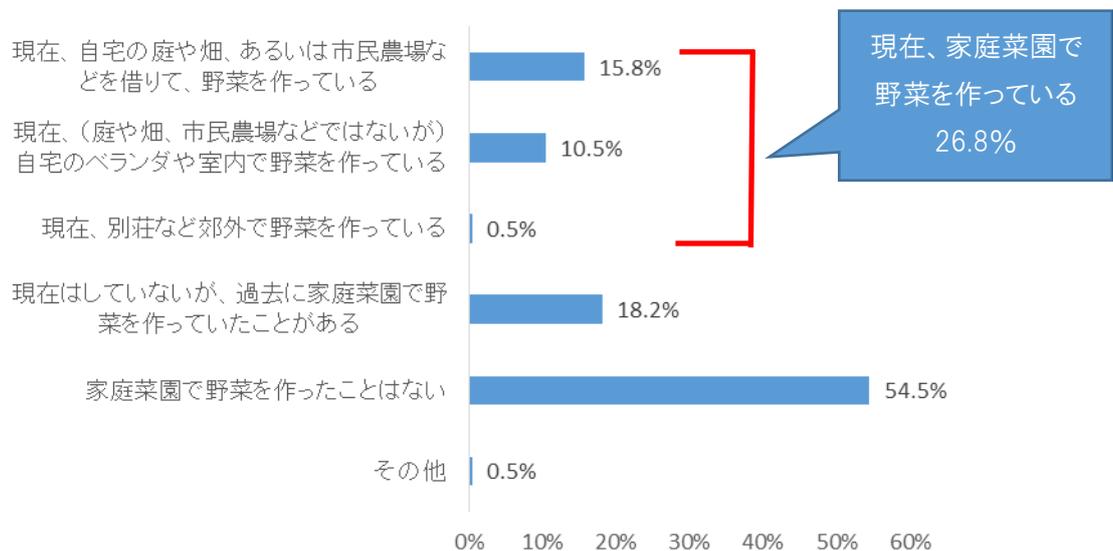
野菜を摂取するためにしたいことトップ3(性別比較)



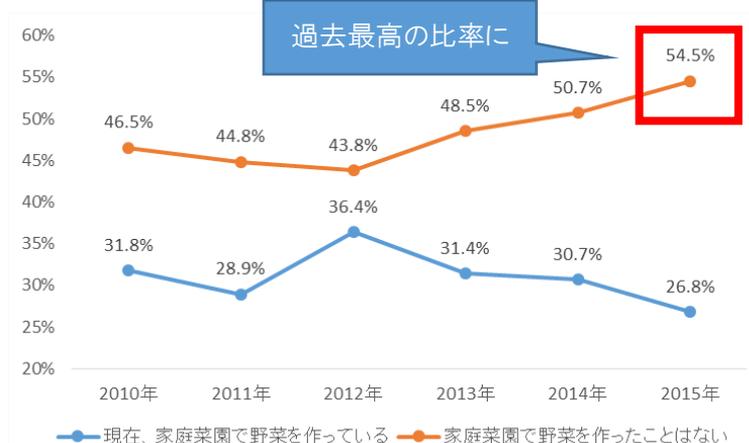
Q. あなたは家庭菜園(ベランダ菜園、または庭や畑あるいは市民農場を借りて等、程度は問わずご自身やご家族で野菜を育てることを、ここでは家庭菜園とする)で野菜を作ったことはありますか。あてはまるもの一つに回答してください。

家庭菜園の経験の有無では、「現在、自宅の庭や畑、あるいは市民農場などを借りて、野菜を作っている」(15.8%)、「現在、(庭や畑、市民農場などではないが)自宅のベランダや室内で野菜を作っている」(10.5%)、「現在、別荘など郊外で野菜を作っている」(0.5%)、「現在はしていないが、過去に家庭菜園で野菜を作っていたことがある」(18.2%)の合計が 45.0%となった。一方でいま現在も家庭菜園をしている人は、合計で 26.8%と2014年に比べて 3.9ポイント比率を下げた。また「家庭菜園で野菜を作ったことはない」が 54.5%と調査以来過去最高の比率となった。「現在、家庭菜園で野菜を作っている」との回答は女性で多く、「家庭菜園で野菜を作ったことはない」では男性の比率が高かった。

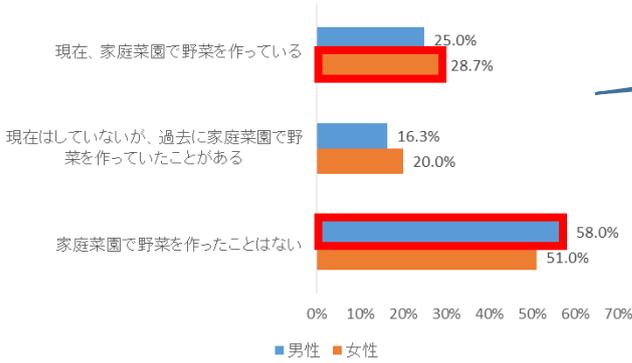
家庭菜園の有無(全体)



家庭菜園の有無(2010年~2015年)

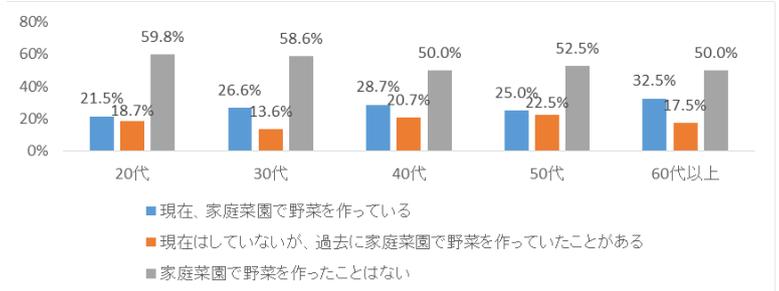


家庭菜園の有無(性別比較)



女性の方が家庭菜園で野菜を作っている
比率が高い

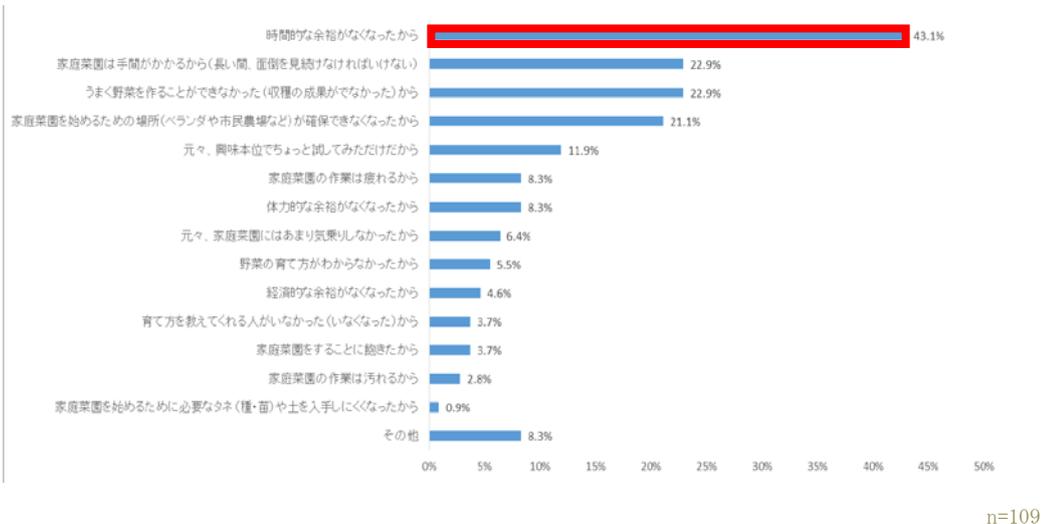
(年代比較)



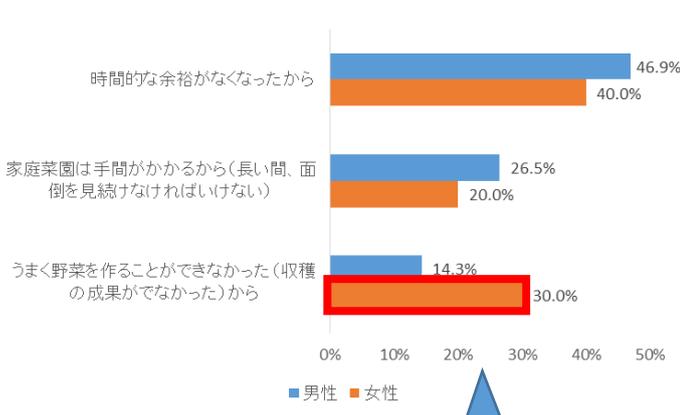
Q. 家庭菜園を現在していない(やめている)理由は何ですか? あてはまるものすべてに回答してください。
※「野菜より花に興味をもつようになったから」は回答なし

家庭菜園をしていない理由は、「時間的な余裕がなくなったから」が 43.1%と他の理由を大きく引き離れた。「時間的な余裕がなくなったから」は 2013 年から比率を伸ばしている。逆に「家庭菜園は手間がかかるから(長い間、面倒を見続けなければいけない)」や「うまく野菜をつくることができなかった(収穫の成果がでなかった)から」は 2013 年以降、回答比率が低水準で推移している。性別で比較すると、「うまく野菜をつくるができなかったから」は男性に比べて女性の比率が高く、女性全体で 2 番目に高い比率を示していた。

家庭菜園をしていない理由(全体)

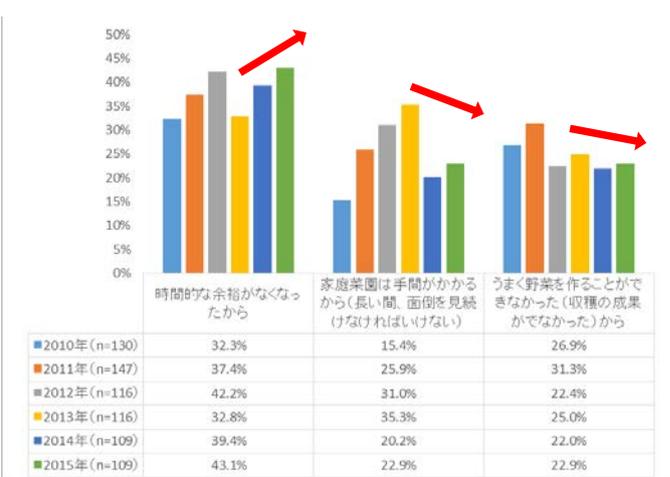


家庭菜園をしていない理由(性別比較)



女性の比率が高い

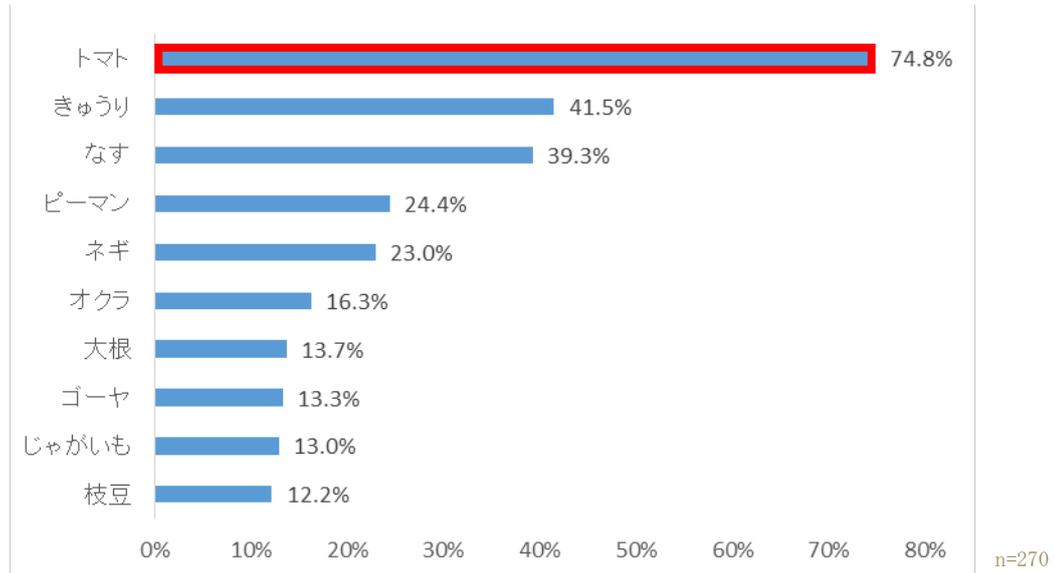
(2010年~2015年)



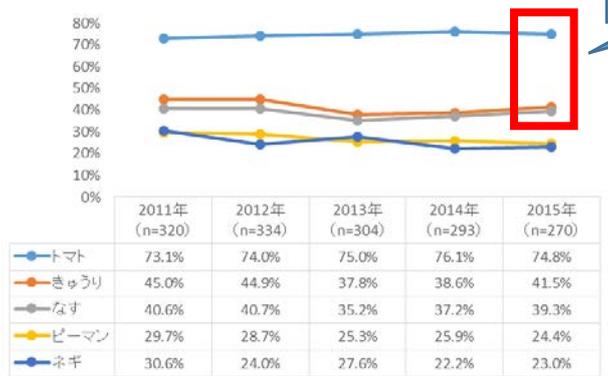
Q. あなたが家庭菜園で作っている野菜は何ですか？あてはまるものすべてに回答してください。
 ※過去に経験があり、現在はしていない人も、家庭菜園をやっていたときに栽培していた野菜を回答してください。

家庭菜園で作っている野菜では、「トマト」が74.8%でトップだった。続いて「きゅうり」が41.5%、「なす」が39.3%となった。上位トップ3は、2011年以降順位の変動がなく推移している。家庭菜園で作っている野菜を性別で比較すると、「きゅうり」を作っているとの回答は、女性に比べて男性の方が高かった。

家庭菜園で作っている野菜

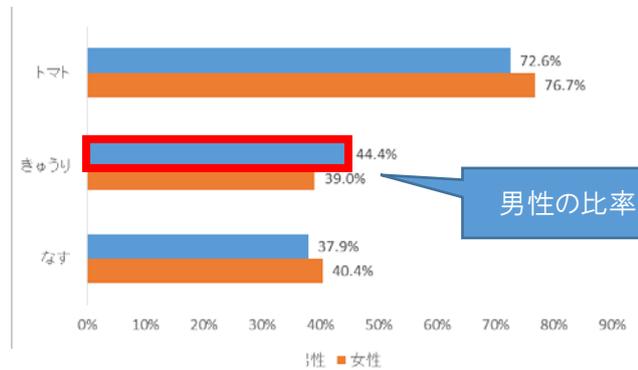


家庭菜園で作っている野菜(2011年～2015年)



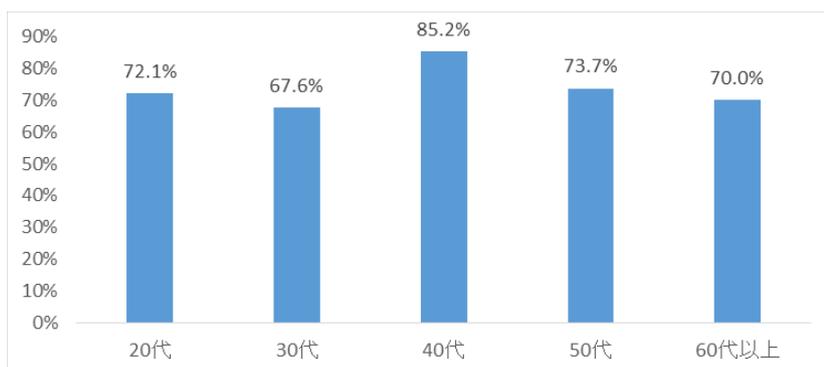
上位トップ3は
変動なし

(性別比較)



男性の比率が高い

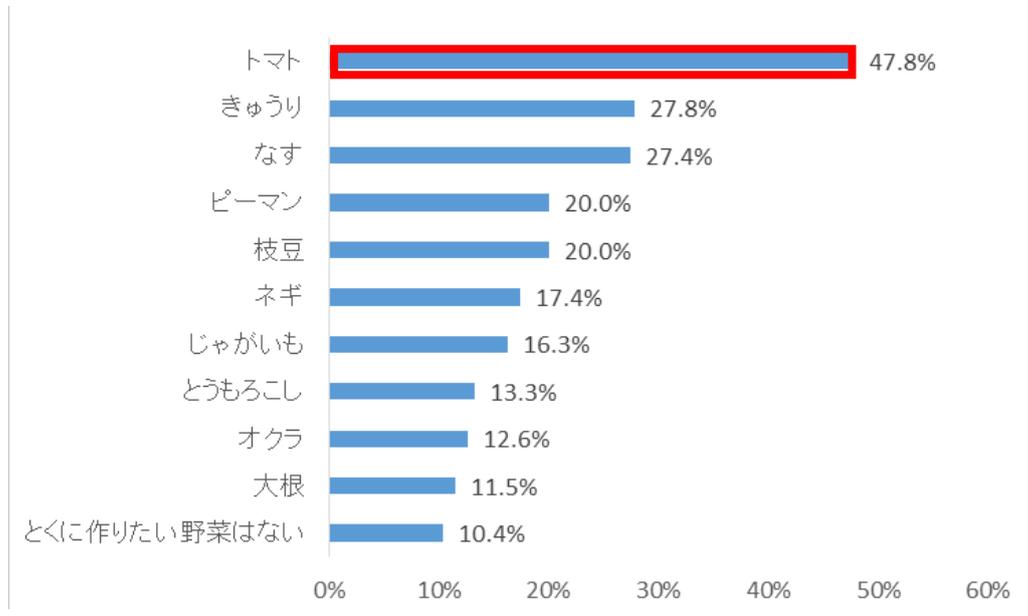
家庭菜園で作っている野菜トップ「トマト」(年代比較)



Q. あなたが今後家庭菜園で作りたい野菜は何ですか？あてはまるものすべてに回答してください。
 ※過去に経験があり、現在はしていない人も、再び家庭菜園をやったときに栽培してみたい野菜を回答してください。

家庭菜園で作りたい野菜では、「トマト」が47.8%で1位となったが、その比率は、年々下降傾向にある。2位は「きゅうり」、3位は「なす」と、トップ3は今作っている野菜と同じ順位だった。家庭菜園で作りたい野菜を性別で比較すると、「トマト」「きゅうり」「なす」のトップ3では、女性が“作りたい”と回答していた。

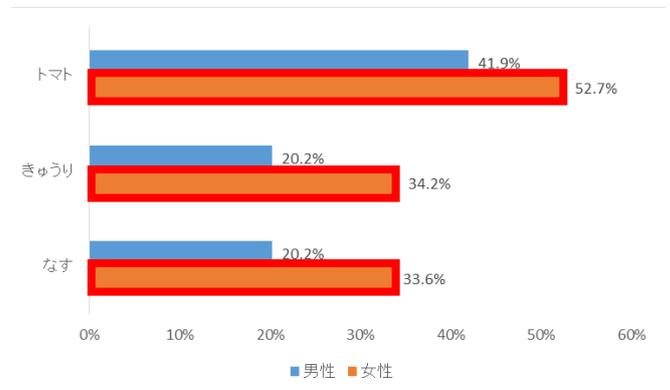
家庭菜園で作りたい野菜(全体)



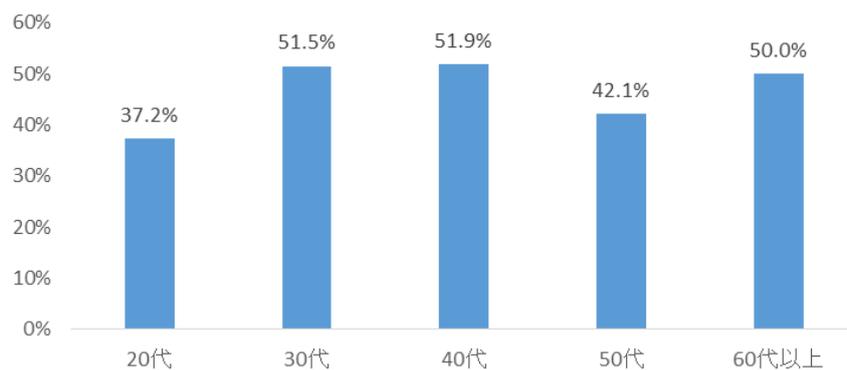
家庭菜園で作りたい野菜(2011年～2015年)



(性別比較)



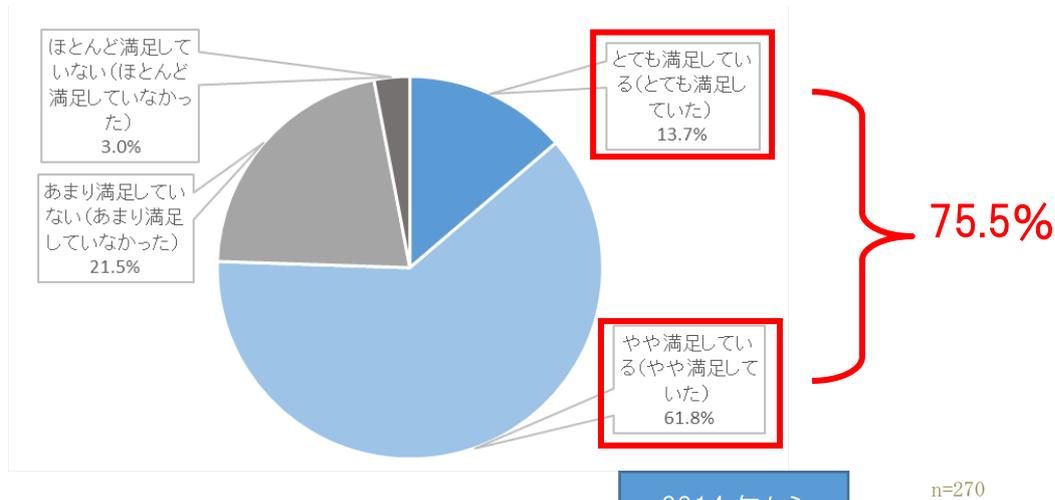
家庭菜園で作りたい野菜トップ「トマト」(年代比較)



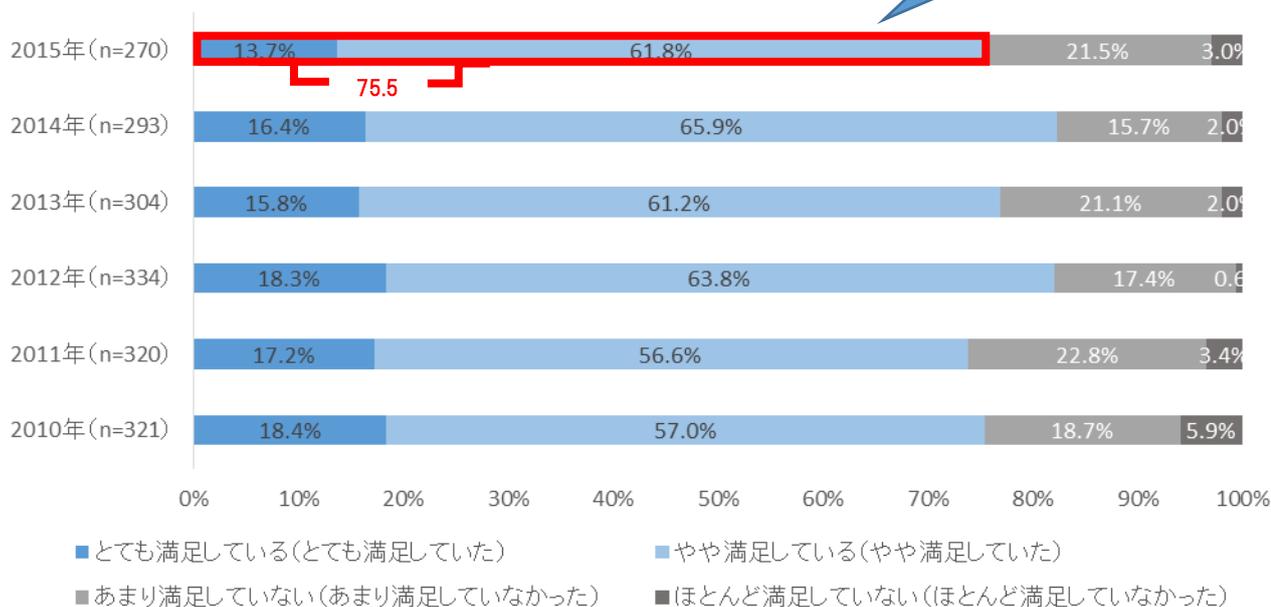
Q. あなたは、家庭菜園で野菜を作っている(作っていた)ことにどの程度満足していますか。あてはまるもの一つに回答してください。

家庭菜園の満足度では、「とても満足している(とても満足していた)」が 13.7%、「やや満足している(やや満足していた)」が 61.8%と、「満足」との比率は 75.5%に達した。2014 年と比較すると、「満足」との回答は 6.8 ポイントも減少していた。家庭菜園の満足度を性別で比較すると、男性の「満足」は 82.3%であったのに対し、女性は 69.9%と、女性の満足度が低いことが明らかとなった。

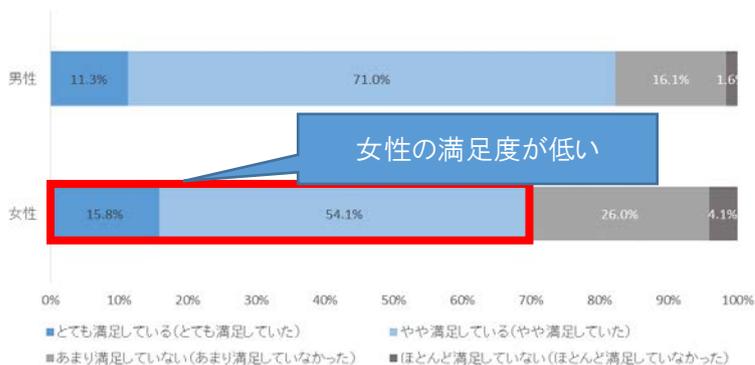
家庭菜園の満足度



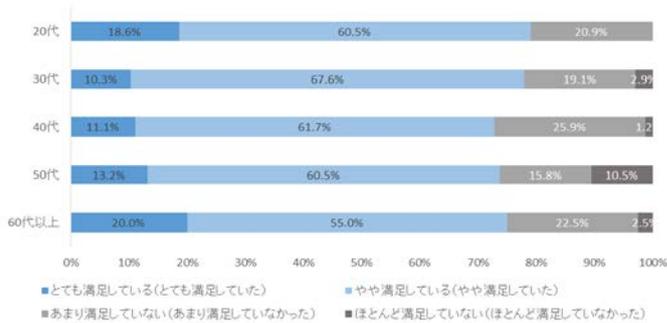
家庭菜園の満足度(2011年～2015年)



家庭菜園の満足度(性別比較)



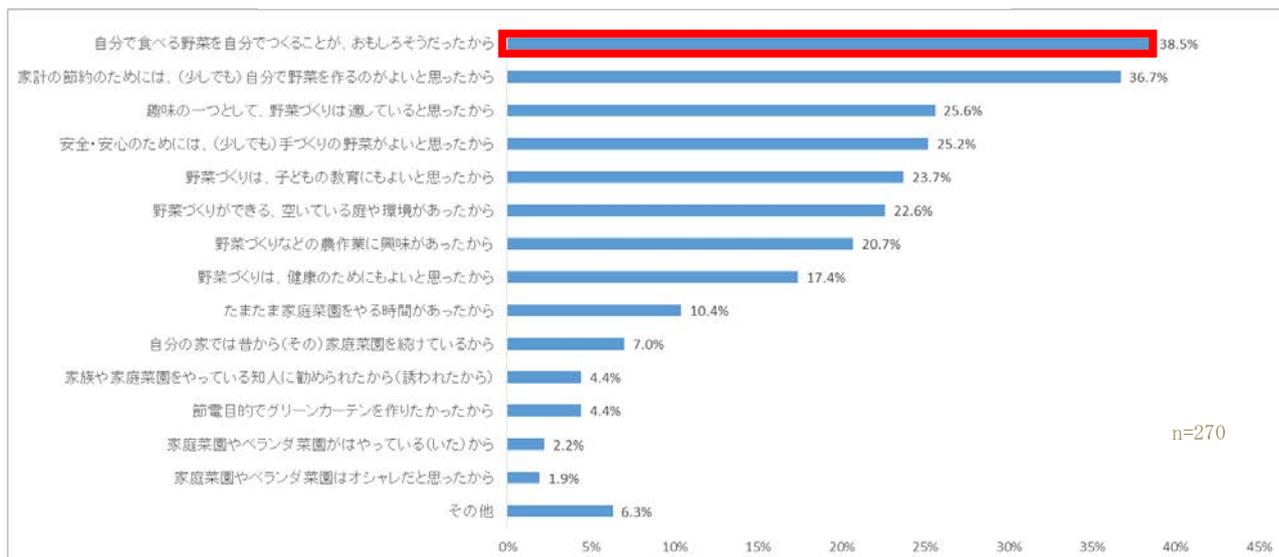
(年代比較)



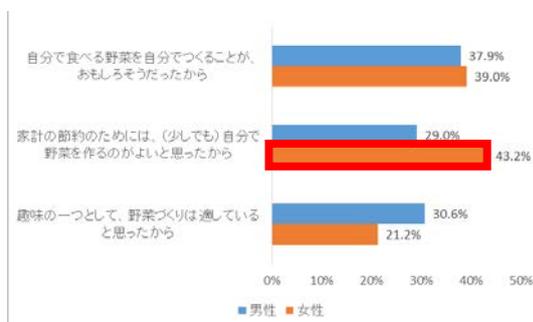
Q. あなたが家庭菜園を始めた理由は何ですか。あてはまるものすべてに回答してください。
 ※過去に経験があり、現在はしていない人も、家庭菜園を始めたときの理由を回答してください。

家庭菜園を始めた理由は、「自分で食べる野菜を自分でつくることが、おもしろそうだったから」が 38.5%でトップとなった。次に、「家計の節約のためには、(少しでも)自分で野菜を作るのがよいと思ったから」が 36.7%となった。「家計の節約のためには、自分で野菜を作るのがよいと思ったから」は 2014 年に比べて 6.0 ポイントも上昇しており、経済的理由で家庭菜園を始める人が増えていることが明らかとなった。性別で比較してみると、経済的理由で始めたとの意見は、男性に比べて女性の比率が高かった。

家庭菜園を始めた理由

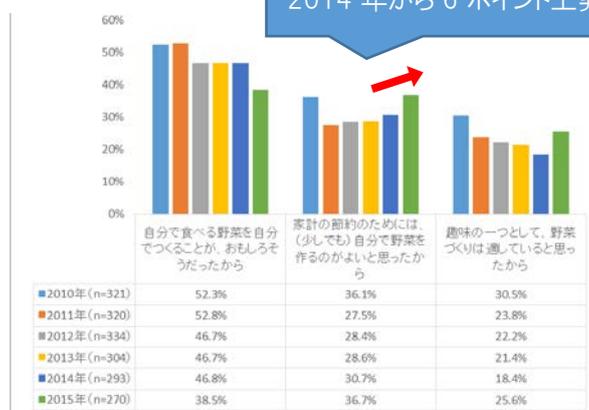


家庭菜園を始めた理由トップ 3(性別比較)



女性の比率が高い

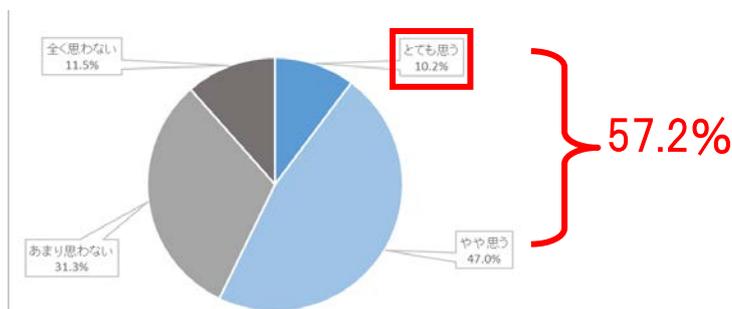
(2010年～2015年)



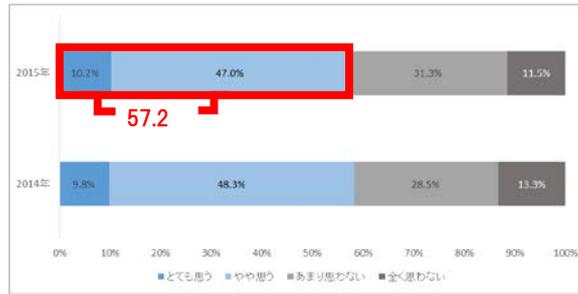
Q. 「機能性成分を豊富に含む野菜」を育ててみたいと思いますか？

機能性成分を豊富に含んだ野菜の栽培の有無では、「とても思う」が 10.2%、「やや思う」が 47.0%と「思う」の合計が 57.2%に達した。2014 年の回答と比較しても、傾向に大きな変化は見られなかった。性別比較では、女性に比べて男性の方が「思う」という回答が多かった。年代比較では、20代で「とても思う」との回答が高く、若年層の機能性成分を豊富に含んだ野菜の栽培意欲が高いことがうかがえる。

機能性成分を豊富に含んだ野菜の栽培の有無

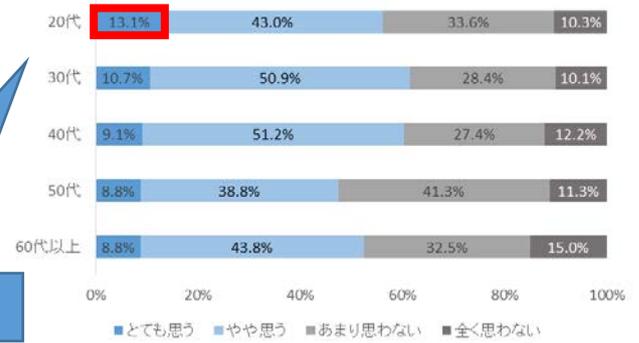


機能性成分を豊富に含んだ野菜の栽培の有無(2014年～2015年)



20代で「とても思う」の比率が高い

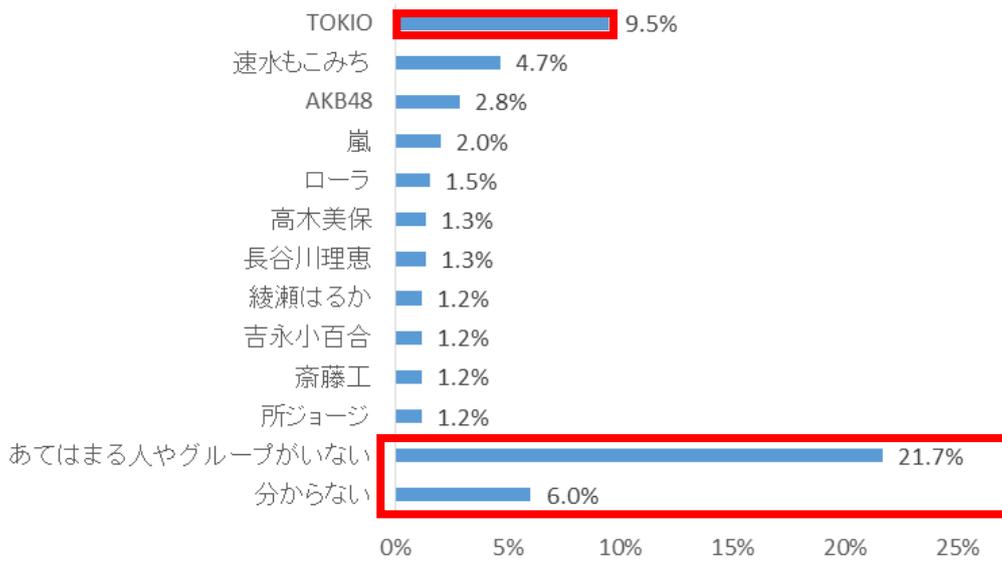
(年代比較)



Q. あなたが「野菜」からイメージする、あるいは「野菜」が最も似合うと思うタレント・有名人およびグループを 1 人(1 グループ)だけあげて、その理由を 30 字以内で回答してください。

野菜が似合う有名人・グループでは、「TOKIO」が9.5%で3年連続のトップとなった。2位は2014年の4位から順位を2つ挙げた「速水もこみち」(4.7%)だった。2012年にトップだった「AKB48」は2.8%の3位に順位を落とした。その一方で、「あてはまる人やグループがない」(21.7%)、「分からない」(6.0%)との回答も多かった。年代で比較すると、「ローラ」「綾瀬はるか」「斎藤工」は20代、30代といった若年層の回答が多かったが、「吉永小百合」や「所ジョージ」では60代の比率が高く、高齢者の回答が目立った。

野菜が似合う有名人・グループ



野菜が似合う有名人・グループの順位(2011年～2015年)

(年代比較)

